

## 授 業 概 要

科目名	人間の尊厳と自立	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	河野 則子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・介護実践者が利用者をどのように捉えて支援していくのか、人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立した生活を支える必要性について理解し、介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、自立支援など必要性を説明できるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
授業を担当するのは、介護福祉士養成教育、障害を有する被保護有子世帯の支援を研究し、福祉事務所における被保護有子世帯の支援務に携わっている教員である。人間、人権、尊厳とは何か、介護に携わる者が利用者をどのように捉えて支援していくかをグループワーク、発表を通して一緒に学んでいく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座1「人間の理解」(中央法規出版)第2版					家族、友人、街で出会った人等、人の行動、発言に興味を持つ。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 人間の尊厳と利用者主体				9	【授業単元】 自立の概念の多様性 / 自立とは			
	【到達目標】 人間を多面的に理解する。					【到達目標】 自立とはどのような状態をさすのかを理解する。			
2	【授業単元】 人間の尊厳と利用者主体				10	【授業単元】 介護を必要とする人の自立と自立支援			
	【到達目標】 人間の尊厳という理念、利用者主体の考え方を理解する。					【到達目標】 介護を必要とする人の自立を理解し、必要とされる自立支援のあり方を理解する。			
3	【授業単元】 人権思想の潮流とその具現化・人権や尊厳に関する日本の諸規定				11	【授業単元】 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性			
	【到達目標】 人権、尊厳をめぐる歴史的経緯を理解する。 日本国憲法をはじめ、法律で規定されている人間の尊厳について理解する。					【到達目標】 尊厳を守る介護と自立支援の関係について理解する。			
4	【授業単元】 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①				12	【授業単元】 尊厳や人権にかかわった人たち			
	【到達目標】 社会福祉領域において、人権・福祉理念がどのように実践されてきたのか理解する。					【到達目標】 尊厳や人権にかかわった人たちのまとめ。			
5	【授業単元】 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②				13	【授業単元】 医療分野でのQOL			
	【到達目標】 戦後の人権・福祉理念の変遷を理解する。					【到達目標】 生命の質、人生の質、死の質について考えることができる。			
6	【授業単元】 人権尊重と権利擁護				14	【授業単元】 練習問題による復習			
	【到達目標】 利用者の人権尊重と権利擁護が理解できる。					【到達目標】 練習問題、事例を通して尊厳と自立についての理解度を確認する。			
7	【授業単元】 病気を患った人の人権				15	【授業単元】 復習と定期試験			
	【到達目標】 感染症に対する偏見、差別の実態と人権侵害について理解する。					【到達目標】 全授業で学んだ内容確認と記憶の定着。			
8	【授業単元】 復習と中間テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 前半の授業で学んだ内容確認と記憶の定着。				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の最後に提出する小テスト(13回)と中間テストの合計を40点の配分とし、両者の合計でAからFの6段階で評価を行う。  ・小テストは、各回5点満点とし、中間テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数(数が整数でない場合は、小数点以下は切上げ)と定期試験の合計を100点満点として評価。 ・定期試験は筆記試験で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワークを行います。他者の意見を聴いて認め、自分の意見を他者に伝えらるよう練習しておくこと。									

## 授 業 概 要

科目名	人間関係とコミュニケーション I	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	篠原 竜樹		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションの形成とチームでのコミュニケーションの重要性と意義について理解することができる。 また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、利用者、家族、組織におけるコミュニケーションについて理解することができる。									
<b>【学習内容】</b> (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護業界20年の講師が、演習を中心にコミュニケーション技術の意義と、重要性について事例を交えながら、理解を深められるように講義を進めて行きます。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
介護福祉士養成講座1 人間の理解					講義前の予習・復習・疑問点は調べる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・人間の誕生と介護の関係について学ぶ。				9	【授業単元】 ・コミュニケーションの手段を学ぶ。			
	【到達目標】 ・なぜ介護が存在するのかを理解する。					【到達目標】 ・コミュニケーションの手段と組み合わせることでの技法の理解を深める。			
2	【授業単元】 ・自分と他者の理解を学ぶ。				10	【授業単元】 ・対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーションを学ぶ。			
	【到達目標】 ・自分と他者の違いが、人間関係をつくるうえで重要であることを理解する。					【到達目標】 ・対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーションの定義、分類を理解する。 ・関係性の発展と後退を理解する。			
3	【授業単元】 ・発達心理学から見た人間関係を学ぶ。				11	【授業単元】 ・対人援助における基本態度を学ぶ。			
	【到達目標】 ・人間の段階的な発達の過程を具体的に理解する。					【到達目標】 ・対人援助における基本態度となる受容、共感、傾聴について学び、個人の意志や言葉を読み取る大切さを理解する。			
4	【授業単元】 ・社会心理学から見た人間関係を学ぶ。				12	【授業単元】 ・援助的対人関係の形成と相談面接の基礎を学ぶ。			
	【到達目標】 ・社会心理学から見た人間関係を理解できる。 ・人を見る角度によってコミュニケーションにも変化が生じることの理解を深める。					【到達目標】 ・援助的対人関係の形成と相談面接の基礎を理解する。 ・自己の決定、自立、QOLの向上の大切さを理解する。			
5	【授業単元】 ・人間関係とストレスを学ぶ。				13	【授業単元】 ・組織の条件とコミュニケーションの特徴を学ぶ。			
	【到達目標】 ・人間関係とストレスの仕組みについて理解する。					【到達目標】 ・組織の条件と構成と相互作用、コミュニケーションの特徴について理解する。			
6	【授業単元】 ・対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーションを学ぶ。				14	【授業単元】 組織における情報の流れについて学ぶ。			
	【到達目標】 ・対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション概念を理解する。					【到達目標】 ・組織における情報の流れを理解する。			
7	【授業単元】 ・①コミュニケーションの基本構造を学ぶ。				15	【授業単元】 ・組織において求められるコミュニケーションを学ぶ。			
	【到達目標】 ・対人関係の基本となるコミュニケーションの基本構造を理解する。					【到達目標】 ・組織において求められるコミュニケーションを理解する。			
8	【授業単元】 ・②コミュニケーションの基本構造を学ぶ。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・言語、非言語コミュニケーション技術を活用し、理解を深める。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
演習は正解を求めるわけではないことを理解し、積極的に発言、参加を行うことを心掛ける。また、否定的な言葉は出さずに、受容・共感・傾聴を心掛ける。									

## 授 業 概 要

科目名	地域共生学 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小倉 健吾		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域共生社会、地域包括ケアシステムについて知り、理解につなげることができる。 地域共生社会の実現のための制度や施策について知り、理解につなげることができる。 地域共生社会について個人の枠の中でまずは自分の言葉で解釈し、理解したものを表現して他者へ伝えることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護福祉士として介護福祉施設に携わる中で見て聞いた施設と地域の関わりや職員の配慮や利用者様の反応などをつぶさに体感してきた。 変化が目まぐるしい地域共生社会を取り巻く状況やトピックスを時代にキャッチアップしながら織り交ぜ、学生自らが考える力と発信できる力を養う授業とする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
①地域共生社会のポータルサイト②地域包括ケアシステム-厚生労働省 ③地域包括ケアシステムから地域共生社会へ/④SDGsえどがわ10の行動-江戸川区					地域共生社会の視点を学内やクラス内で適用できるように意識すること。 自分だけでなく他者を意識して相互理解することを心掛けてほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 地域包括ケアシステムを理解する～インプット～			
	【到達目標】 地域共生学 I の進め方を知ることができる(単位、科目評価について) 導入～利他の心と思いやり～					【到達目標】 地域包括ケアシステムが目指す社会について理解することができる 地域共生社会と地域包括ケアシステムの関係性について理解することができる			
2	【授業単元】 地域共生社会を理解する(1)～インプット～				10	【授業単元】 SDGsを理解する～インプット～			
	【到達目標】 "地域"という言葉について知り、理解をすることができる。 "地域"を知って、考えるワークを通じて理解を深めることができる。					【到達目標】 SDGsが目指す社会について理解することができる 地域共生社会とSDGsの関係性について理解することができる			
3	【授業単元】 地域共生社会を理解する(2)～インプット～				11	【授業単元】 地域共生社会の先人から学ぶ(1)～インプット～			
	【到達目標】 "共生"という言葉について知り、理解をすることができる。 "共生"を知って、考えるワークを通じて理解を深めることができる。					【到達目標】 地域共生社会を体現するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる			
4	【授業単元】 身近な共生社会を表現する(1)～アウトプット～				12	【授業単元】 地域共生社会の先人から学ぶ(2)～インプット～			
	【到達目標】 自分の生まれ育った環境を知ることができる 自分の生まれ育った環境を知り、共生社会について表現することができる					【到達目標】 地域共生社会を体現するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる			
5	【授業単元】 身近な共生社会を表現する(2)～アウトプット～				13	【授業単元】 地域共生社会の先人から学ぶ(3)～インプット～			
	【到達目標】 自分と他者が生まれ育った環境の違いを知り、理解することができる					【到達目標】 地域共生社会を体現するひとから実際に聞き、質問を通じて理解を深めることができる			
6	【授業単元】 身近な共生社会を表現する(3)～アウトプット～				14	【授業単元】 生きた地域共生社会を表現する～アウトプット～			
	【到達目標】 互いの違いを認めて、共生の視点から他者理解を深めることができる					【到達目標】 現在進行形の地域共生社会を見聞して感じたこと考えたことをまとめて表現することができる 自分の考える地域共生社会の未来を5W1Hを用いて表現して発表する準備ができる (※PowerPointを用いて)			
7	【授業単元】 身近な共生社会を表現する(4)～アウトプット～				15	【授業単元】 定期テスト～アウトプットの評価～			
	【到達目標】 PowerPointを用いて、他者から感じたこと、自分で考えたことをまとめて表現する準備ができる					【到達目標】 PowerPointにて3分間の発表を聞き、質問を行い、互いを評価し合うことができる ふりかえりと総評			
8	【授業単元】 中テスト～アウトプットの評価～				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・小テストと定期試験は筆記試験と発表評価の2種類で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 PowerPointにて3分間の発表を聞き、質問を行い、互いを評価し合うことができる ふりかえりと総評								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・自分が感じたこと、頭の中にある考えを表現、アウトプットする力をつけること。 ・制度や概念、考え方を自分の言葉で言い換えることができるようになること。									

授 業 概 要

科目名	地域共生学 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小倉 健吾・前田 皆子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

地域共生社会、地域包括ケアシステムについて知り、理解につなげることができる。  
 地域共生社会の実現のための制度や施策について知り、理解につなげることができる。  
 地域共生社会について地域を見つめ直すことで自分事として捉え、チームで運動して、1つの表現物として統合したものを他者へ伝えることができる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

介護福祉士として介護福祉施設に携わる中で見て聞いた施設と地域の関わりや職員の配慮や利用者様の反応などをつぶさに体感してきた。  
 変化が目まぐるしい地域共生社会を取り巻く状況やトピックスを時代にキャッチアップしながら織り交ぜ、学生自らが考える力と発信できる力を養う授業とす

【使用教科書・教材・参考図書】

①地域共生社会のポータルサイト/②地域包括ケアシステム-厚生労働省  
 ③地域包括ケアシステムから地域共生社会へ/④SDGsえどがわ10の行動-江戸川区

【授業時間外における学習】

地域共生社会の視点を学内やクラス内で適用できるように意識すること。  
 自分だけでなく他者を意識して相互理解することを心掛けてほしい。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション</p> <p>【到達目標】 地域共生学 I の進め方を知ることができる(単位、科目評価について) 導入～多様性と多文化共生～</p>	9	<p>【授業単元】 地域(江戸川区)共生社会の実現を実践する(1)～フィールドワーク準備～</p> <p>【到達目標】 江戸川区における共生社会の実現に向けての実践計画を立てることができる 課題別にチームを形成し、実践テーマと役割を具体的に決め、行動計画を作ることができる</p>
2	<p>【授業単元】 世界の共生社会について理解する(1)～インプット～</p> <p>【到達目標】 世界の地域課題を知ることができる 世界の地域課題からみえる解決の道筋を知り、理解することができる</p>	10	<p>【授業単元】 地域(江戸川区)共生社会の実現を実践する(2)～フィールドワーク準備～</p> <p>【到達目標】 江戸川区における共生社会の実現に向けての実践計画を立てることができる 課題別にチームを形成し、実践テーマと役割を具体的に決め、行動計画を作ることができる</p>
3	<p>【授業単元】 世界の共生社会について理解する(2)～インプット～</p> <p>【到達目標】 世界と日本における共生社会の比較をすることができる 比較からみえる共生社会の根源となる本質を理解することができる</p>	11	<p>【授業単元】 地域(江戸川区)共生社会の実現を実践する(4)～フィールドワーク実践～</p> <p>【到達目標】 行動計画に従い、フィールドワークを実践することができる</p>
4	<p>【授業単元】 地域(江戸川区)共生社会を知る(1)～インプット～</p> <p>【到達目標】 学校のある江戸川区の環境を知ることができる 江戸川区を知り、共生社会について表現することができる (※SDGsえどがわ10の行動を参考)</p>	12	<p>【授業単元】 地域(江戸川区)共生社会の実現を実践する(5)～フィールドワーク実践～</p> <p>【到達目標】 行動計画に従い、フィールドワークを実践することができる</p>
5	<p>【授業単元】 地域(江戸川区)共生社会を知る(2)～インプット～</p> <p>【到達目標】 江戸川区職員の方を招いてSDGsえどがわ10の行動の実践例を知ることができる 江戸川区の地域課題についても議論を深め、自分事として捉えることができる</p>	13	<p>【授業単元】 地域(江戸川区)共生社会の実現を実践する(6)～フィールドワークふりかえり～</p> <p>【到達目標】 実践したフィールドワークをふりかえり、テーマ・内容ごとに分けてチーム分析を行うことができる 発表にあたってチーム内で役割を明確化して臨むことができる (※PowerPointを用いて)</p>
6	<p>【授業単元】 地域(江戸川区)共生社会を表現する(1)～アウトプット～</p> <p>【到達目標】 PowerPointを用いて、江戸川区における共生社会について自分の言葉で表現することができる</p>	14	<p>【授業単元】 地域(江戸川区)共生社会の実現を実践する(6)～フィールドワークまとめ～</p> <p>【到達目標】 実践したフィールドワークについてチーム分析をおこない、まとめて発表準備をすることができる 発表にあたってチーム内で役割を明確化して臨むことができる (※PowerPointを用いて)</p>
7	<p>【授業単元】 地域(江戸川区)共生社会を表現する(2)～アウトプット～</p> <p>【到達目標】 PowerPointを用いて、江戸川区における地域課題・解決の糸口について自分の言葉で表現することができる</p>	15	<p>【授業単元】 定期テスト～アウトプットの評価～</p> <p>【到達目標】 PowerPointにて8分間の発表を聞き、質問を行い、互いを評価し合うことができる チームでの役割の明確化するので責任の所在を明らかとなる為、成績はチーム評価とする ふりかえりと総評</p>
8	<p>【授業単元】 中テスト～アウトプットの評価ト～</p> <p>【到達目標】 PowerPointにて3分間の発表を聞き、質問を行い、互いを評価し合うことができる ふりかえりと総評</p>	<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>・小テストと定期試験は筆記試験と発表評価の2種類で行う。                  ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>	

【履修に当たっての心構え・留意点】

- ・自分が感じたこと、頭の中にある考えを表現、アウトプットする力をつけること。
- ・制度や概念、考え方を自分の言葉で言い換えることができるようになること。

## 授 業 概 要

科目名	介護の基本 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	佐藤紀子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その機能と役割の概要を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護の発展過程で、介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士の国家資格を取得した。介護実践現場と教育機関で働きながら、求められる介護職になるために、研修のあり方の研究をしてきた。学習内容に照らし経験を伝えたい。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『介護福祉士福祉士養成講座3 介護野基本 I』第2版 中央法規出版					毎日のニュースを見て、世の中の出来事に関心を持つように心がける。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション(自己紹介、授業の内容と進め方、学習方法)・第1章 介護の基本となる理念 ・介護の成り立ち				17	【授業単元】 第3章 介護福祉士の倫理 介護福祉士の倫理の実践			
2	【到達目標】 ・授業概要を把握でき、今後の授業の進め方のイメージを持つことができる。 ・介護の成り立ちを理解できる。				18	【到達目標】 ・介護福祉士の倫理の概要を理解する。 ・実事例から倫理の視点を知ることができる。			
3	【授業単元】 ・介護を取り巻く状況 介護の社会化				19	【授業単元】 ・「日本介護福祉士会」の倫理綱領 介護福祉士の専門性 第4章 ・自立に向けた支援			
4	【到達目標】 ・社会状況の変化の概要を理解することができる。 ・介護の社会化の動向を理解することができる。				20	【到達目標】 ・介護福祉士の専門性を理解できる。 第4章 ・自立支援に向けた支援考え方を理解できる。			
5	【授業単元】 ・介護の歴史 介護サービスの量的拡充				21	【授業単元】 ・ICF ・自立支援とエンパワメント			
6	【到達目標】 ・介護福祉法制定前の社会福祉の概要を知ることができる。 ・サービスの量的拡充の意味を理解することができる。				22	【到達目標】 ・ICFの概要を理解できる。 ・自立支援とエンパワメントの関係を理解できる。			
7	【授業単元】 ・サービスの量的拡充 ・介護福祉の基本理念				23	【授業単元】 ・生活意欲と活動 自立支援とリハビリテーション			
8	【到達目標】 ・サービスの質的拡充のポイントを理解することができる。 ・尊厳を支える介護の視点を理解するコトができる。				24	【到達目標】 ・生活意欲と活動の支援の概要を理解できる。 ・リハビリテーションとは何かを理解することができる。			
9	【授業単元】 ・自立を支える介護 尊厳を支える介護				25	【授業単元】 ・リハビリテーションの実践と介護福祉士の役割 ・自立支援と介護予防			
10	【到達目標】 自立を支える介護の視点を理解できる。 尊厳を支える介護の視点を理解することができる。				26	【到達目標】 ・リハビリテーションと介護職の関わり方を理解できる。 ・自立支援と介護予防の目的と意義を理解できる。			
11	【授業単元】 ・社会福祉士法及び介護福祉士法 社会福祉士法及び介護福祉士法に関する諸規定				27	【授業単元】 ・介護予防の概要 介護予防の種類			
12	【到達目標】 法の目的と定義の概要を理解する。 資格取得についての概要を理解できる。				28	【到達目標】 ・介護予防の概要を知ることができる。 ・介護予防の様々な支援を知ることができる。			
13	【授業単元】 ・介護福祉士の機能と役割 地域共生社会 災害時・看取りの時の役割				29	【授業単元】 ・介護予防における介護福祉士の役割 *授業のまとめと定期試験			
14	【到達目標】 ・地域共生社会と介護福祉士の役割の概要を理解できる。 災害時、看取り時の概要を理解できる。				30	【到達目標】 ・介護予防における介護福祉士の役割を理解できる。 * 学習を振り返り、今後の授業への課題を見つけることができる。			
15	【授業単元】 ・前半のまとめ 中間試験 ・介護福祉士を支える団体				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
16	【到達目標】 ・前半を振り返り、学習の課題を知ることができる。 ・介護福祉士を支える団体の概要と役割を理解できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日本や海外の人々の暮らしに関心を持つように心がけること。									

## 授 業 概 要

科目名	介護の基本Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	佐藤紀子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
介護福祉の基本となる理念をもとに、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門性を目指す力をつけることができる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
介護従事者として働きはじめて、時代の要請とともに介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士の資格を取得しました。介護施設、地域支援、介護福祉士養成にかかわってきた経験を授業で伝えていきたいです。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
『介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ』第2版 中央法規					・毎日ニュースを見る習慣をつけ、世の中の出来事に関心を持ち、考え、意見を持つことができるようにこころがける。				
コマ	授業計画				授業計画				
1 ・ 2	【授業単元】 ・オリエンテーション 第1章 介護を必要とする人の理解 ・生活の理解				17 ・ 18	【授業単元】 ・リスクマネジメント ・介護における事故と法的責任			
	【到達目標】 ・授業の内容を理解して、学習への関心を持つことができるようになる。 ・生活の基本要素を理解することができる					【到達目標】 ・福祉サービスのリスクマネジメントの基本を理解できる。 ・過誤・事故・苦情の概要を理解できる。			
3 ・ 4	【授業単元】 ・生活の特性 ・高齢者の暮らし				19 ・ 20	【授業単元】 ・福祉サービスに求められる安全・安心 ・身体拘束			
	【到達目標】 ・生活の多様性を理解できる。 ・高齢者の暮らしを理解できる。					【到達目標】 ・安全・安心の視点を理解できる。 ・身体拘束の概要から対応策を考えることができる。			
5 ・ 6	【授業単元】 障害のある方の生活 ・介護を必要とする人の暮らし				21 ・ 22	【授業単元】 ・感染症 ・感染症の基本的な方法			
	【到達目標】 ・ 障害のある方の生活を理解できる。 ・ 支援を受ける人の思いを理解できる。					【到達目標】 ・感染症の基本知識の概要を理解できる。 ・生活の場における感染症の基本的な知識と技術の概要を理解することができる。			
7 ・ 8	【授業単元】 ・家族介護者の理解と支援 第2章 ・介護福祉を必要とする人の生活を支える。				23 ・ 24	第4章 協働する多職種の機能と役割 ・多職種連携の必要性 ・保健・医療・福祉職			
	【到達目標】 ・家族介護者の支援について理解できる。 ・地域共生社会と地域ケアシステムの概要を理解できる。					【到達目標】 ・多職種と協働する必要性を理解できる。 ・関係する多職種の専門性を理解することができる。			
9 ・ 10	【授業単元】 ・高齢者のためのフォーマルサービス ・生活を支えるインフォーマルサービス				25 ・ 26	【授業単元】 ・多職種連携・協働の実践 第5章 介護従事者の安全 ・健康管理の重要性			
	【到達目標】 ・介護保険制度のサービスの概要を知ることができる。 ・インフォーマルサービスの概要を知ることができる。					【達成目標】 ・チームづくりの概要を理解することができる。 ・健康管理の重要性を理解することができる。			
11 ・ 12	【授業単元】 ・フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係性 ・地域連携の目的と意義				27 ・ 28	【授業単元】 ・介護従事者を守る法制度 ・介護に従事する人の健康問題			
	【到達目標】 ・フォーマルサービスとインフォーマルサービスの役割と意義を理解することができる。 ・地域連携の目的と意義を理解することができる。					【到達目標】 ・労働基準法、労働安全衛生法の基本の概要を理解する。 ・介護に従事する人の健康問題の概要を理解理解する。			
13 ・ 14	【授業単元】 ・地域連携にかかわる組織と団体の概要を理解できる。				29 ・ 30	【授業単元】 ・心身の健康管理 ・授業のまとめと定期試験			
	【到達目標】 ・地域連携にかかわる組織と団体の概要を理解できる。 ・地域連携のいない手の概要を知ることができる。					【到達目標】 ・心身の健康管理の概要を理解できる。 ・授業を振り返りと、今後の学習方法を明確にすることができる。			
15 ・ 16	【授業単元】 ・前半のまとめ中間試験 第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント ・セーフティマネジメント				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・前半を振り返り今後の学習の確認ができる。 ・セーフティマネジメントの考え方を理解できる。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
日頃より、様々な人々の生活に関心を持つことにより、授業内容をより理解でき									

## 授業概要

科目名	コミュニケーション技術 I	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	篠原 竜樹		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
対象者との支援関係の構築のためのチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法、障害特性を学び、介護実践やチームケアに必要な情報共有のためのコミュニケーション能力を深めます。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
介護業界20年の講師が、演習を中心にコミュニケーション技術の意義と、重要性について事例を交えながら、理解を深められるように講義を進めていきます。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術					講義前の予習・復習・疑問点は調べる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> ・介護におけるコミュニケーションの意義と目的、展開課程を学ぶ ・介護におけるコミュニケーションが果たす役割、介護福祉職のコミュニケーションと支援の対象を知る。  <b>【到達目標】</b> ・介護におけるコミュニケーションの意義と目的と介護におけるコミュニケーションの展開過程を理解できる。 ・コミュニケーションの果たす役割と介護福祉職のコミュニケーションのコミュニケーション支援の対象を理解する。				9	<b>【授業単元】</b> ・家族への助言・指導・調整について学ぶ。 ・家族関係と介護ストレスの対応を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・家族を支援する視点と家族の意向の調整について理解する。 ・家族関係のとらえ方や家族の介護ストレスの対応について理解する。			
2	<b>【授業単元】</b> ・援助関係の特徴と援助関係を構築するための原則、介護における援助関係を意識したコミュニケーションを学ぶ。 ・コミュニケーション態度に関する基本技術を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・援助関係の特徴と援助関係を構築するための原則を学び、援助関係を意識したコミュニケーションを理解する。 ・傾聴、受容、共感、コミュニケーションにおける距離などの基本技術を理解する。				10	<b>【授業単元】</b> ・チームのコミュニケーションの意義と目的、介護の実践場面におけるチームコミュニケーション技術を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・チームにおけるコミュニケーションの意義・目的を理解する。 ・多職種協働チームのコミュニケーションを理解する。 ・介護の実践場面におけるチームコミュニケーション技術について理解する。			
3	<b>【授業単元】</b> ・言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本を学ぶ。 ・目的別のコミュニケーションを学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・言語コミュニケーションと言語以外を使ったコミュニケーションを理解する。 ・利用者の動機づけや、もの見方に変化を生み出す技術と意思決定支援を促すためのコミュニケーションを理解する。				11	<b>【授業単元】</b> ・報告・連絡・相談の技術と環境づくりを学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・報告・相談・連絡の意義と報告、連絡、相談の技術を理解する。 ・環境づくりの重要性を理解する。			
4	<b>【授業単元】</b> ・集団におけるコミュニケーション技術の意義と、集団とは何か？を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・集団でコミュニケーションをはかる意義、集団の種類と定義を留意点を理解する。				12	<b>【授業単元】</b> ・記録の意義、目的、種類、書き方、実際を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・記録の目的、種類、記録の方法と書き方、記録の実際について理解する。			
5	<b>【授業単元】</b> ・コミュニケーション障害理解と対応の基本を学ぶ。 ・①さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・コミュニケーション障害と障害の原因に対するアセスメントから、コミュニケーション支援の基本を理解する。 ・視覚障害、聴覚障害、構音障害のあるひとへの支援を理解する。				13	<b>【授業単元】</b> ・会議とは何か、会議の諸事進行・説明の技術を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・会議とはの意義と、必要な諸事進行と準備を理解する。 ・チームにおける説明と技術を理解する。			
6	<b>【授業単元】</b> ・②さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・失語症、認知症、うつ病・抑うつ状態、統合失調症の人への支援を理解する。				14	<b>【授業単元】</b> ・事例検討の意義、目的、基本姿勢を知り、実践的展開と問題解決の手法、注意点と協働を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・事例検討を行う意義・目的と、コミュニケーションの基本姿勢、実践的展開を理解する。 ・事例検討のときに必要となる問題解決の手法、注意点と支援方法・解決策のは協働がわかりやすくすることを理解する。			
7	<b>【授業単元】</b> ・③さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・知的障害、発達障害、高次脳機能障害、重症心身障害のある人への支援を理解する。				15	<b>【授業単元】</b> ・情報の活用と管理と個人情報の保護、活用について学ぶ。  <b>【到達目標】</b> ・情報の活用と管理と保護、活用を理解する。			
8	<b>【授業単元】</b> ・家族との関係づくりに必要な、家族の気持ち、意向、意向表出について知る。  <b>【到達目標】</b> ・家族と共同関係の構築と家族の「気持ちの理解」を理解する。 ・家族の介護に対する意向の確認と意向表出の支援について理解する。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
演習は正解を求めるわけではないことを理解し、積極的に発言、参加を行うことを心掛ける。また、否定的な言葉は出さずに、受容・共感・傾聴を心掛ける。									



## 授 業 概 要

科目名	生活支援技術Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	大和田/茂木/安藤		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠をふまえた生活支援技術を理解・実践することができる。</li> <li>・個性を理解し、尊厳の保持や自立支援にむけた介護サービスの準備・提供ができる。</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護老人福祉施設・通所介護サービス等で、介護福祉士として従事している教員が、介護現場の実際を交えながら、利用者の思いに寄り添い生活を支えるための知識・技術を習得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規 最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ					・予習/復習 ・課題提出				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1.2.3	【授業単元】 授業オリエンテーション コミュニケーションの基本  【到達目標】 生活支援技術という授業の内容、必要性を理解することができる。 利用者への声かけを実践することができる。				25.26.27	【授業単元】 移動の介護④(安全に車いす走行する介助方法) 車いすの種類と使用方法、基本的構造  【到達目標】 車いすの種類と使用方法、基本的構造を理解することができる。 安心/安全に車いす走行する介助方法を理解・実践することができる。			
4.5.6	【授業単元】 ベッドメイキング・環境整備の理解①  【到達目標】 利用者の尊厳と好みに配慮した、環境整備を行うことができる。 ベッドメイキングの基本を理解・実践することができる。				28.29.30	【授業単元】 移動の介護⑤(車いすを使用した外出支援)  【到達目標】 利用者の個性を踏まえ、外出支援方法を理解・実践することができる。			
7.9.9	【授業単元】 ベッドメイキング・環境整備の理解② 体位名称の理解  【到達目標】 利用者の尊厳と好みに配慮した、環境整備を行うことができる。 ベッドメイキングの基本を理解・実践することができる。				31.32.33	【授業単元】 身じたくの介護①【整容】(爪切り・髪型・髭剃り・タオル洗顔) 医療行為に該当しない、ケアについて  【到達目標】 利用者の個性を理解し、尊厳を保持した整容方法を理解・実践することができる。 医療行為に当たらない、ケアを知ることができる。			
10.11.12	【授業単元】 ボディメカニクスの理解 移動の介護①(水平移動・体位変換)  【到達目標】 利用者・介護者ともに、負担の少ない体の動かし方を理解・実践することができる。 自立に向けた声かけを行いながら、移動介助を実践することができる。 移動介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた、水平移動/体位変換を実践することができる。				34.35.36	【授業単元】 身じたくの介護②【着脱介助】(座位/前開き・かぶり)  【到達目標】 着脱介助の原理原則を理解する。 自立に向けた声かけを行いながら、着脱介助を実践することができる。 座位での着脱介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。			
13.14.15	【授業単元】 総合演習①(臥位の利用者のベッドメイキング)  【到達目標】 利用者の身体的状況を踏まえた、ベッドメイキング・声かけを実践することができる。				37.38.39	【授業単元】 身じたくの介護③【着脱介助】(座位/ズボン)  【到達目標】 着脱介助の原理原則を理解する。 自立に向けた声かけを行いながら、着脱介助を実践することができる。 座位での着脱介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。			
16.17.18	【授業単元】 移動の介護②(起き上がり・立ち上がり)  【到達目標】 自立に向けた声かけを行いながら、移動介助を実践することができる。 移動介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた、起き上がり/立ち上がり介助を実践することができる。				40.41.42	【授業単元】 身じたくの介護④【着脱介助】(臥位/前開き)  【到達目標】 自立に向けた声かけを行いながら、着脱介助を実践することができる。 臥位での着脱介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。			
19.20.21	【授業単元】 移動の介護③(立ち上がり/杖を使用している利用者の歩行介助) 杖の種類  【到達目標】 杖を使用している利用者の、安全と自立に配慮した歩行介助を理解・実践することができる。 福祉用具(杖)を活用する意図・目的を理解し、種類/使用方法を理解することができる。				43.44.45	【授業単元】 総合演習③(臥位での着脱～起き上がり) 定期テスト  【到達目標】 事例にもとに、利用者の身体的状況を踏まえた着脱・起き上がりの介助・声かけを考え実践することができる。			
22.23.24	【授業単元】 総合演習②(起き上がり～杖歩行介助) 中テスト  【到達目標】 事例をもとに、利用者の身体的状況を踏まえた移動介助・声かけを考え実践することができる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護実習室は“利用者のお部屋”という認識のもと使用し、使用時のルールを事前に十分理解したうえで受講すること。 「介護の基本」「こころからだのしくみ」で学んだ知識が、技術習得にはとても重要です。関連性を十分に理解して受講すること。									



## 授 業 概 要

科目名	生活支援技術Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	大和田/茂木/安藤		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠をふまえた生活支援技術を理解・実践することができる。</li> <li>・個性を理解し、尊厳の保持や自立支援にむけた介護サービスの準備・提供ができる。</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護老人福祉施設・通所介護サービス等で、介護福祉士として従事している教員が、介護現場の実際を交えながら、利用者の思いに寄り添い生活を支えるための知識・技術を習得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規 最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ					・予習/復習 ・課題提出				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1.2.3	<b>【授業単元】</b> 食事の介護①(口體体操・食事の種類/形態)  <b>【到達目標】</b> 食事の意義・目的を理解し、おいしく・安全に食事をするための基本を理解・実践することができる。 食事形態/咀嚼・嚥下力が低下した方への食事について、理解することができる。				25.26.27	<b>【授業単元】</b> 入浴・清潔保持の介護⑤(臥位での洗髪介助)  <b>【到達目標】</b> 洗髪の意義・目的を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。 臥位での洗髪介助の基本を理解し、安楽で爽快感のある介助を実践することができる。			
4.5.6	<b>【授業単元】</b> 食事の介護②(食事介助)  <b>【到達目標】</b> 自立に向けた声かけを行いながら、食事介助を実践することができる。 食事介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。				28.29.30	<b>【授業単元】</b> 移動の介護⑥【移乗】(車いすベッド/一部介助) 移乗を助ける福祉用具(スライディングボード)  <b>【到達目標】</b> 自立に向けた声かけを行いながら、移乗介助を実践することができる。 移乗介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた安全な介助を実践することができる。 利用者の身体状態に応じた福祉用具(スライディングボード)の使用方法・注意点を理解し、安全な移乗介助を実践することができる。			
7.8.9	<b>【授業単元】</b> 身じたくの介護④【口腔ケア】(ブラッシング・口腔清拭法・歯菌の種類/注意点)  <b>【到達目標】</b> 口腔ケアの意義・目的・効果を理解することができる。 口腔ケア介助の基本を理解し、利用者の身体的状況に合わせた介助を実践することができる。 歯菌の種類・取り扱い時の注意点について理解することができる。				31.32.33	<b>【授業単元】</b> 移動の介護⑦【移乗】(車いすベッド/半介助～全介助)  <b>【到達目標】</b> 自立に向けた声かけを行いながら、移乗介助を実践することができる。 移乗介助の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた安全な介助を実践することができる。			
10.11.12	<b>【授業単元】</b> 排泄の介護①(トイレ介助) 心身の状態・状況に応じた排泄方法  <b>【到達目標】</b> 排泄の意義・目的を理解し、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した介助を実践することができる。 自立に向けた声かけを行いながら、排泄介助を実践することができる。 利用者の心身の状態・状況に応じた排泄方法/福祉用具について理解することができる。				34.35.36	<b>【授業単元】</b> 休息・睡眠の介護(睡眠・部分浴/足浴) 安楽体位の基本と準備予防のポイント  <b>【到達目標】</b> 睡眠の意義・目的を理解し、より良い睡眠を支える技術・知識を習得することができる。 部分浴の効果を理解し、基本的技術を実践することができる。 安楽体位の基本を理解し、安全で安楽な姿勢保持の介助を実践することができる。			
13.14.15	<b>【授業単元】</b> 排泄の介護②(臥位/おむつ交換) おむつの種類とモデルを使った排泄・吸水実験  <b>【到達目標】</b> 排泄の意義・目的を理解し、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した介助を実践することができる。 自立に向けた声かけを行いながら、排泄介助を実践することができる。				37.38.39	<b>【授業単元】</b> 人生の最終段階における介護(終末期ケア) 身じたくの介護⑤(臥位/浴衣)  <b>【到達目標】</b> 個別性に合わせた終末期ケア/介護福祉職のあり方・役割について理解することができる。 臥位での浴衣の着付け方の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。			
16.17.18	<b>【授業単元】</b> 入浴・清潔保持の介護①(機械浴/全身清拭) 入浴の効果とリスクについて  <b>【到達目標】</b> 入浴の意義・目的を理解し、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した介助を実践することができる。 自立に向けた声かけを行いながら、入浴介助を実践することができる。 気化熱現象・全身清拭の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。				40.41.42	<b>【授業単元】</b> 移動の介護⑧(上方移動/スライディングシート) 総合演習②(臥位/おむつ交換～車いすベッド/全介助)  <b>【到達目標】</b> 利用者の身体状態に応じた福祉用具(スライディングシート)の使用方法・注意点を理解し、安全な移動介助を実践することができる。 事例にもとづいて、利用者の身体的状況を踏まえた介助・声かけを考え実践することができる。			
19.20.21	<b>【授業単元】</b> 入浴・清潔保持の介護②(機械浴/全身清拭)  <b>【到達目標】</b> 入浴の意義・目的を理解し、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した介助を実践することができる。 自立に向けた声かけを行いながら、入浴介助を実践することができる。 気化熱現象・全身清拭の基本を理解し、利用者の身体的状況を踏まえた介助を実践することができる。				43.44.45	<b>【授業単元】</b> 総合演習③(技術確認テスト) 定期テスト  <b>【到達目標】</b> 前/後期を通して学んだ技術・知識の確認 事例にもとづいて、利用者の身体的状況を踏まえた介助・声かけを考え実践することができる。			
22.23.24	<b>【授業単元】</b> 総合演習①(入浴後の介助) 中テスト  <b>【到達目標】</b> 事例にもとづいて、利用者の身体的状況を踏まえた介助・声かけを考え実践することができる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護実習室は“利用者のお部屋”という認識のもと使用し、使用時のルールを事前に十分理解したうえで受講すること。 「介護の基本」「こころからだのしくみ」で学んだ知識が、技術習得にはとても重要です。関連性を十分に理解して受講すること。									

## 授 業 概 要

科目名	介護過程 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	首藤 雄太		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。 前期は、介護過程の意義・目的及び介護過程の展開プロセス、アセスメントについて説明できることを目標とする。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
現在、特別養護老人ホームにて、介護福祉士・ケアマネジャーとして従事。 介護実践に必要な思考過程について、グループワークや意見交換を通して、学びを深めながら、授業を実施する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程【第2版】他 (介護福祉士養成講座編集委員会)中央法規出版					・次の授業までに、前回の講義内容を復習する ・身近な事柄について、「何故だろうか」という考える習慣を持つ				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 アセスメント(解釈・関連づけ・情報化)①(p48~64)			
	【到達目標】 ・介護実践における思考過程を、自身の身近な事柄で体感することができる					【到達目標】 ・アセスメントの思考の方法を理解することができる ・アセスメントでは諸知識を統合することの必要性を理解することができる ・個別ケアにおけるアセスメントの意義を理解することができる			
2	【授業単元】 介護過程とは何か				10	【授業単元】 アセスメント(解釈・関連づけ・情報化)②(p48~64)			
	【到達目標】 ・映像を見ながら、介護過程の目的・展開を理解することができる					【到達目標】 ・アセスメントの思考の方法を理解することができる ・アセスメントでは諸知識を統合することの必要性を理解することができる ・個別ケアにおけるアセスメントの意義を理解することができる			
3	【授業単元】 介護過程の意義・目的(p1~24)				11	【授業単元】 アセスメント(解釈・関連づけ・情報化)③(p48~64)			
	【到達目標】 ・介護過程の意義・目的を理解することができる ・介護過程の全体像を理解することができる					【到達目標】 ・アセスメントの思考の方法を理解することができる ・アセスメントでは諸知識を統合することの必要性を理解することができる ・個別ケアにおけるアセスメントの意義を理解することができる			
4	【授業単元】 アセスメント(情報収集)①(p38~47)				12	【授業単元】 アセスメント(解釈・関連づけ・情報化)④(p48~64)			
	【到達目標】 ・情報収集の必要性を理解することができる ・情報とは何か理解することができる					【到達目標】 ・アセスメントの思考の方法を理解することができる ・アセスメントでは諸知識を統合することの必要性を理解することができる ・個別ケアにおけるアセスメントの意義を理解することができる			
5	【授業単元】 アセスメント(情報収集)②(p38~47)				13	【授業単元】 アセスメント(解釈・関連づけ・情報化)⑤(p48~64)			
	【到達目標】 ・情報収集の必要性を理解することができる ・情報とは何か理解することができる					【到達目標】 ・アセスメントの思考の方法を理解することができる ・アセスメントでは諸知識を統合することの必要性を理解することができる ・個別ケアにおけるアセスメントの意義を理解することができる			
6	【授業単元】 アセスメント(情報収集)③(p38~47)				14	【授業単元】 実習Ⅱ-①での取り組み・課題			
	【到達目標】 ・情報収集の必要性を理解することができる ・情報とは何か理解することができる					【到達目標】 ・受け持ち利用者の決定方法、アセスメントシートについて理解することができる			
7	【授業単元】 アセスメント(情報収集)④(p38~47)				15	【授業単元】 定期試験 前期授業の振り返りおよび試験解答解説			
	【到達目標】 ・情報収集の必要性を理解することができる ・情報とは何か理解することができる ・8回目までの講義内容を振り返り、今後の課題を発見することができる					【到達目標】 ・前期授業を振り返り、今後の課題を発見することができる ・介護過程の意義・目的及び介護過程の展開プロセス、アセスメントについて説明することができる			
8	【授業単元】 アセスメント(情報収集)⑤(p38~47) 中間テスト				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・情報収集の必要性を理解することができる ・情報とは何か理解することができる ・8回目までの講義内容を振り返り、今後の課題を発見することができる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
・介護過程は、他の授業科目と密接に関連を持つ。 他の授業で学んだことと本科目を結び付けて、考えられるように心がけてほしいと考えている。									

## 授 業 概 要

科目名	介護過程 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	首藤 雄太		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。</p> <p>後期は、介護過程の一連の展開プロセスが説明できる、介護計画を立案し、利用者の状態・状況に応じた介護過程が展開できる力を習得することを目標とする。</p> <p>また、施設実習にて作成した介護計画を通して、他者に発信する力を身につけることを目指す。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>現在、特別養護老人ホームにて、介護福祉士・ケアマネジャーとして従事。</p> <p>介護実践に必要な思考過程について、グループワークや意見交換を通して、学びを深めながら、授業を実施する。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程【第2版】他 (介護福祉士養成講座編集委員会)中央法規出版					<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の授業までに、前回の講義内容を復習する</li> <li>・身近な事柄について、「何故だろうか」という考える習慣を持つ</li> </ul>				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 事例を通じた介護過程の展開①				9	【授業単元】 介護過程とケアマネジメントの関係性(p144~155)			
	【到達目標】 ・事例から利用者の気になるポイントを挙げ、何故なのか考えることができる (受け持ち利用者の決定動機)					【到達目標】 ・ケアマネジメントとは何かを理解することができる ・ケアプランとは何かを理解することができる ・ケアプランと個別援助計画の関係性を理解することができる			
2	【授業単元】 事例を通じた介護過程の展開②				10	【授業単元】 チームアプローチにおける介護福祉士の役割(p156~165)			
	【到達目標】 ・事例から情報収集を実施することができる					【到達目標】 ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解することができる ・チームアプローチにおける利用者支援の実践を理解することができる			
3	【授業単元】 事例を通じた介護過程の展開③				11	【授業単元】 施設実習における介護過程を見つめなおす①			
	【到達目標】 ・事例から情報の解釈・関連づけ・統合化を実施することができる					【到達目標】 ・情報収集から情報分析の流れを、自分自身の介護計画に照らし合わせ、振り返ることができる			
4	【授業単元】 施設実習における介護過程の振り返り				12	【授業単元】 施設実習における介護過程を見つめなおす②			
	【到達目標】 ・実習で実施した介護過程を振り返り、自分の課題を発見することができる ・受け持ち利用者の決定動機、利用者像を他者に伝えることができる					【到達目標】 ・情報収集から情報分析の流れを、自分自身の介護計画に照らし合わせ、振り返ることができる			
5	【授業単元】 介護計画の立案(p65~75)				13	【授業単元】 施設実習における介護過程を見つめなおす③			
	【到達目標】 ・個別ケア提供における介護計画の意義を理解することができる ・介護計画における介護目標の設定方法を理解することができる ・介護計画の立案方法について理解することができる					【到達目標】 ・自分自身の介護計画に照らし合わせ、具体的計画案を作成することができる			
6	【授業単元】 介護計画の立案(p65~75)				14	【授業単元】 施設実習における介護過程を見つめなおす④			
	【到達目標】 ・個別ケア提供における介護計画の意義を理解することができる ・介護計画における介護目標の設定方法を理解することができる ・介護計画の立案方法について理解することができる					【到達目標】 ・自分自身の介護計画に照らし合わせ、具体的計画案を作成することができる ・自身の介護過程の展開を、他者に伝えることができる			
7	【授業単元】 介護の実践(p76~81)				15	【授業単元】 定期試験 後期授業の振り返りおよび試験解答解説			
	【到達目標】 ・介護過程における「実施」の意義を理解することができる ・実施における留意点を理解することができる ・実施後の記録の意義と留意点を理解することができる					【到達目標】 ・後期授業を振り返り、今後の課題を発見することができる ・介護過程の一連の展開プロセスが説明できる、介護計画を立案し、利用者の状態・状況に応じた介護過程が展開できる			
8	【授業単元】 評価(p82~87) 中間テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・介護過程における評価の意義を理解することができる ・評価の内容と方法を理解することができる ・個別ケアにおける評価の重要性を理解することができる ・8回目までの講義内容を振り返り、今後の課題を発見することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<p>・介護過程は、他の授業科目と密接に関連を持つ。</p> <p>他の授業で学んだことと本科目を結び付けて、考えられるように心がけてほしいと考えている。</p>									

## 授 業 概 要

科目名	介護総合演習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	岡 賢子・茂木 茜		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護技術としてのコミュニケーションの基本、実習に望む姿勢を習得できる。 利用者の望む生活とはどのようなものかを考えることができるための学びを理解できる。 介護過程の展開との関係性を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保健福祉医療分野において利用者個々の状態や状況に応じた実践を経験し、介護教員としての指導経験をもつ教員が、介護過程の実践に向けて、学生個々の状況を把握し、理解を深める授業をグループワークや発表を用いて実践し、学生の力を向上させる授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護総合演習(介護福祉士養成テキストブック) 実習と記録(JESC)					介護記録は文字を中心におこなう。よって書くことや読むこと、文字から想像できる力が必要となる。日頃から読む力や書く力、想像する力を養ってほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 利用者の生活を理解するための介護技術としてのコミュニケーションの確認を行う  【到達目標】 高齢者に対するコミュニケーションの回り方を知り、理解することができる。				9	【授業単元】 行動目標を実践するための個別の介護技術の確認(1)  【到達目標】 目標達成に対して自分の介護技術を確認することができる。			
2	【授業単元】 利用者の生活する場を理解する(1)  【到達目標】 介護実習をおこなう施設を知り、理解をすることができる。				10	【授業単元】 行動目標を実践するための個別の介護技術の確認(2)  【到達目標】 確認した介護技術を他者と評価し合い、互いに実践・評価することができる			
3	【授業単元】 利用者の生活する場を理解する(2)  【到達目標】 介護実習をおこなう施設での生活を知り、理解をすることができる。				11	【授業単元】 利用者の1日の生活の流れと関わり方を学ぶ(1)  【到達目標】 施設利用者の1日の生活がどのようなものかを知り、理解をすることができる。			
4	【授業単元】 実習効果を上げるための学びの確認(1)  【到達目標】 実習においてどのような学びをすることができるかを知り、考えることができる。				12	【授業単元】 利用者の1日の生活の流れと関わり方を学ぶ(2)  【到達目標】 施設利用者の生活場面から実習生としての関わり方を知り、理解をすることができる。			
5	【授業単元】 実習効果を上げるための学びの確認(2)  【到達目標】 実習に向けた学びの準備、実習を終えてからの振り返ることができる。				13	【授業単元】 職員との連携と記録の技術を学ぶ(1)  【到達目標】 実習先施設での多職種連携はどのようにおこなわれているか知り、理解をすることができる。 記録の技術の基礎を知り、自分に置き換え考えることができる。			
6	【授業単元】 通所介護事業所及び介護老人福祉施設等の利用者の全体像を学ぶ  【到達目標】 通所介護事業所及び介護老人福祉施設等の利用者像を知り、理解をすることができる。				14	【授業単元】 職員との連携と記録の技術を学ぶ(2)  【到達目標】 多職種連携の理解を踏まえて実習生として振る舞いを知ることができる。 記録の技術の基礎から自分で記録表現をすることができる。			
7	【授業単元】 通所介護事業所及び介護老人福祉施設等の利用者の生活を知る目標を設定する  【到達目標】 通所介護事業所及び介護老人福祉施設等の実習目標を考え、作成することができる。				15	【授業単元】 定期テスト 実習の流れ、実習準備の振り返りを行うことができる。  【到達目標】 実習に向けた準備として介護記録記載できるかをたしかめることができる。			
8	【授業単元】 目標達成に必要な具体的な行動目標について学ぶ 実習をおこなう意味、介護記録に関して振り返ることができる。  【到達目標】 介護記録の基本である自分の言葉を言語化する力をたしかめることができる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・実習で学んできたものを分析理解できるように書き残して、記録の学びにもつなげていけるよう心がけてほしいと考えている。									

## 授 業 概 要

科目名	介護総合演習 I		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	岡 賢子・茂木 茜		
学科 コース	介護福祉士科		学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】										
利用者の生活とはどのようなものかを事前に理解し、行動目標を作成できるようになるとともに必要な介護技術を習得する。 介護過程の展開との関係性を理解する。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
保健福祉医療分野において利用者個々の状態や状況に応じた実践を経験し、介護教員としての指導経験をもつ教員が、介護過程の実践に向けて、学生個々の状況を把握し、理解を深める授業をグループワークや発表を用いて実践し、学生の力を向上させる授業を実施する。										
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】				
介護総合演習 (介護福祉士養成テキストブック) 実習と記録(JESC)						介護記録は文字を中心におこなう。よって書くことや読むこと、文字から想像できる力が必要となる。日頃から読む力や書く力、想像する力を養ってほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 施設の役割と介護福祉士の業務等を確認する(通所介護及び入所施設)				9	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における利用者の生活の全体像を学ぶ(1)				
	【到達目標】 通所介護及び入所施設の役割と介護業務を確認することができる。					【到達目標】 グループホーム及び障害者施設等において生活をしている利用者の実際を知り、理解することができる。				
2	【授業単元】 在宅サービスにおける利用者・家族・地域との連携関係を学ぶ(1)				10	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における利用者の生活の全体像を学ぶ(2)				
	【到達目標】 在宅サービスにおいて生活をしている利用者の実際を知り、理解することができる。					【到達目標】 グループホーム及び障害者施設等において生活をしている利用者、その家族の実際を知り、理解することができる。				
3	【授業単元】 在宅サービスにおける利用者・家族・地域との連携関係を学ぶ(2)				11	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における利用者の生活の全体像を学ぶ(3)				
	【到達目標】 在宅サービスにおいて生活をしている利用者、その家族の実際を知り、理解することができる。					【到達目標】 グループホーム及び障害者施設等と利用者、地域とのつながり、その関係性を知り、理解することができる。				
4	【授業単元】 在宅サービスにおける利用者・家族・地域との連携関係を学ぶ(3)				12	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等での 実習目標達成に必要な具体的行動目標を学ぶ(1)				
	【到達目標】 在宅サービスと地域とのつながり、その関係性を知り、理解することができる。					【到達目標】 グループホーム及び障害者施設等でおこなうために必要な実習目標、具体的行動目標の意義を知り、理解することができる。				
5	【授業単元】 在宅サービスにおける利用者・家族・地域との連携関係の学びをまとめる				13	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等での 実習目標達成に必要な具体的行動目標を学ぶ(2)				
	【到達目標】 9回にわたっておこなった、在宅サービスの学びを自分たちの言葉で表現することができる。					【到達目標】 グループホーム及び障害者施設等でおこなうために必要な実習目標、具体的行動目標の実際を知り、自らの目標を考えることができる。				
6	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における 施設の役割や介護福祉士の役割を学ぶ(1)				14	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等での 実習目標達成に必要な具体的行動目標を学ぶ(3)				
	【到達目標】 グループホーム及び障害者施設等の施設の役割を知り、理解することができる。					【到達目標】 グループホーム及び障害者施設等でおこなうために必要な実習目標、具体的行動目標を自らで考えたものを表現し、他者へ共有することができる。				
7	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における 施設の役割や介護福祉士の役割を学ぶ(2)				15	【授業単元】 振り返りとレポート作成				
	【到達目標】 グループホーム及び障害者施設等で働く介護福祉士を知り、理解することができる。					【到達目標】 実習に向けた準備として学んだ各項目を振り返り、自分の言葉で学びを表現することができる。				
8	【授業単元】 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における 施設の役割や介護福祉士の役割を学ぶ(3)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
	【到達目標】 グループホーム及び障害者施設等の施設や介護福祉士の働きを学んだ上で、実習生としての振る舞い、立ち位置を確認することができる。									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
・実習で学んできたものを分析理解できるように書き残して、記録の学びにもつなげていけるよう心がけてほしいと考えている。										

## 授 業 概 要

科目名	介護総合演習 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	集中	担当 教員	岡 賢子・茂木 茜		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	64 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
利用者の生活とはどのようなものかを事前に理解し、行動目標を作成できるようになるとともに必要な介護技術を習得する。 介護過程の展開との関係性を理解する。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
保健福祉医療分野において利用者個々の状態や状況に応じた実践を経験し、介護教員としての指導経験をもつ教員が、介護過程の実践に向けて、学生個々の状況を把握し、理解を深める授業をグループワークや発表を用いて実践し、学生の力を向上させる授業を実施する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
介護総合演習（介護福祉士養成テキストブック） 実習と記録(JESC)					介護記録は文字を中心におこなう。よって書くことや読むこと、文字から想像できる力が必要となる。日頃から読む力や書く力、想像する力を養ってほしい。				
<b>授業計画</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通所介護事業所における実習目標の確認(1)</li> <li>2. 通所介護事業所における実習目標の確認(2)</li> <li>3. 通所介護事業所における実習目標の確認(3)</li> <li>4. 実習目標の学生相互確認からの動機づけ</li> <li>5. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(1)</li> <li>6. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(2)</li> <li>7. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(3)</li> <li>8. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(4)</li> <li>9. 通所介護事業所における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(1)</li> <li>10. 通所介護事業所における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(2)</li> <li>11. 介護老人福祉施設等の実習における具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(1)</li> <li>12. 介護老人福祉施設等の実習における具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(2)</li> <li>13. 介護老人福祉施設等における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(1)</li> <li>14. 介護老人福祉施設等における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(2)</li> <li>15. 介護老人福祉施設等における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(3)</li> <li>16. 介護老人福祉施設等における実習の振り返り、介護実践の科学的探究につなげる学び(4)</li> <li>17. 実習全体を振り返り、次の実習に向けての目標につなげる学び(1)</li> <li>18. 実習全体を振り返り、次の実習に向けての目標につなげる学び(2)</li> <li>19. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習目標の確認(1)</li> <li>20. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習目標の確認(2)</li> <li>21. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習目標の確認(3)</li> <li>22. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(1)</li> <li>23. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(2)</li> <li>24. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(3)</li> <li>25. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習の再確認(1)</li> <li>26. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習の再確認(2)</li> <li>27. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習の振り返り(1)</li> <li>28. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習の振り返り(2)</li> <li>29. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における実習の振り返り(3)</li> <li>30. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における介護実践の科学的探究につなげる学び(1)</li> <li>31. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における介護実践の科学的探究につなげる学び(2)</li> <li>32. 認知症高齢者グループホーム及び障害者施設等における介護実践の科学的探究につなげる学び(3)</li> </ol>									
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>					<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
・実習で学んできたものを分析理解できるように書き残して、記録の学びにもつなげていけるよう心がけてほしいと考えている。					講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				

## 授 業 概 要

科目名	介護実習 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	集中	担当 教員	白井・岡・茂木・前田		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	3 単位	総時間数	168 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p><b>【デイサービス実習】</b>          実習に臨む姿勢を修得できる。利用者の望む生活とはどのようなものか理解できる。利用者の言葉として捉えるコミュニケーションの展開と実践ができる。学びを記録に残すことができる。</p> <p><b>【認知症高齢者グループホーム・障害者施設等】</b>          利用者の一日の生活のサイクルを体験し、生活の連続性を理解する。介護福祉士としての生活の場における役割を理解し、受容、共感の姿勢を取れるようになる。また記録の重要性についても理解する。利用者の情報を記録に残し、介護過程の展開につなげる学びができる。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p><b>【デイサービス実習】</b>          実習に臨む姿勢を修得し、比較的要介護度の低い利用者のいる通所介護事業所等において、利用者の望む生活とはどのようなものか、利用者の言葉として捉える学び。学びを記録に残し、他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びとする。</p> <p><b>【認知症高齢者グループホーム・障害者施設等】</b>          利用者の主たる生活の場(認知症高齢者グループホーム・障害者施設等)で利用者の生活の状況を学ぶ。利用者の一日の生活サイクルを体験し、生活の連続性について学び、介護福祉士の役割を体験的に学ぶ。学びは記録に残し、他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びとする。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
実習と記録(JESC)					介護記録は文字を中心におこなう。よって書くことや読むこと、文字から想像できる力が必要となる。日頃から読む力や書く力、想像する力を養ってほしい。				
授業計画									
<p><b>【デイサービス実習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習生として実習に臨む姿勢を学ぶことができる</li> <li>2. 利用者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる</li> <li>3. 利用者の望む生活と環境を理解できる</li> <li>4. 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる</li> <li>5. 学びを記録することができる</li> <li>6. 在宅における多職種協働の実際を知り、利用者の生活を支える仕組みを知る</li> </ol> <p><b>【認知症高齢者グループホーム・障害者施設等実習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症高齢者グループホーム・障害者施設等の利用者が望む生活と生活状況を知る</li> <li>2. 小規模な集団における認知症高齢者の生活を知る</li> <li>3. 障害のある利用者の障害を理解し、今の生活を理解する</li> <li>4. 生活の連続性について知る</li> <li>5. 介護福祉士の役割を知る</li> <li>6. 学びを記録することができる</li> <li>7. 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる</li> <li>8. 利用者の生活を支える多職種を知り、多職種協働の理解を深める</li> </ol>									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
・実習で学んできたものを分析理解できるように書き残して、記録の学びにもつなげていけるよう心がけてほしいと考えている。					実習評価表、実習日誌記載内容及び巡回指導時の指導内容で評価可(60点以上)で合格とする。 デイサービス実習で1単位、グループホーム・障害者施設実習で2単位とする。				



## 授 業 概 要

科目名	介護実習Ⅱ(施設実習Ⅰ)	必修 選択の別	必修	開講 区分	集中	担当 教員	白井・岡・茂木・前田		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	3 単位	総時間数	136 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
施設利用者の生活の場を知ることができる。利用者への理解を深めることができる。利用者の想いを実現する具体的な方法論を知ることができる。ICFの視点に基づき、利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践することができる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
施設利用者の生活の場を知り、利用者への理解を深め、利用者の思いを実現する学びとする。ICFの視点に基づき、利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する学びとする。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
実習と記録(JESC)					介護記録は文字を中心におこなう。よって書くことや読むこと、文字から想像できる力が必要となる。日頃から読む力や書く力、想像する力を養ってほしい。				
授業計画									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の役割を確認する学び</li> <li>2. 移設と利用者・家族・地域との連携関係を学ぶ</li> <li>3. 施設利用者の生活の場を知る</li> <li>4. 利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する</li> <li>5. 利用者の思いを実現する具体的な方法論を知る</li> <li>6. 介護過程(情報収集～情報分析まで)を展開できる</li> <li>7. 生活の連続性について知る</li> <li>8. 介護福祉士の役割を知る</li> <li>9. 学びを記録することができる</li> <li>10. 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる</li> </ol>									
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>					<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
・実習で学んできたものを分析理解できるように書き残して、記録の学びにもつなげていけるよう心がけてほしいと考えている。					実習評価表、実習日誌記載内容及び巡回指導時の指導内容で評価可(60点以上)で合格とする。				

## 授 業 概 要

科目名	発達と老化の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	押山乃里子	
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>								
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な知識を習得する。								
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>								
看護・介護領域で臨床経験を積んだ看護師が、人間の、成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化と、ライフサイクルに応じた各段階の特徴を伝え、その知識を生活支援に活かし、利用者の状況に応じた適切な支援を行うことのできる介護福祉士の養成を目指す。								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>			
中央法規出版株式会社 最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 第2版 他								
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション / 医療連携 人間の成長発達の基礎的理解① 人間の成長と発達 <b>【到達目標】</b> 人間の成長と発達の考え方や生涯発達の考え方を学び、環境が発達に影響を与えることを理解する。 連携の必要性を理解することができる				<b>【授業単元】</b> 老年期の特徴と発達課題① 老年期の定義、老化とは <b>【到達目標】</b> 老年期の定義の必要性を学び、老化を学説から考えることができる。			
2	<b>【授業単元】</b> 人間の成長発達の基礎的理解② 成長・発達の原則 成長発達に影響する要因 <b>【到達目標】</b> 成長・発達の原則・放逐を学び、発達に影響を与える要因を遺伝やホルモン、環境面から考えることができる。			9 / 1 0 / 1 1	<b>【授業単元】</b> 老年期の特徴と発達課題② 老年期の発達課題 <b>【到達目標】</b> 老年期の発達の特徴と老年期の人格やセクシュアリティを理解し、老年期の発達の特徴と老年期の人格やセクシュアリティを理解し、老年期の体験における心理過程を理解することができる。			
3	<b>【授業単元】</b> 発達段階と発達課題① 発達理論/発達段階と発達課題 <b>【到達目標】</b> 発達理論、発達課題を提唱しているピアジェ、エリクソン、バルテス、ハヴィガストによる各時期の課題などを理解することができる。				<b>【授業単元】</b> 老年期の特徴と発達課題③ 老年期のをめぐる今日的課題 <b>【到達目標】</b> 少子高齢化について社会背景を基に考え、老年期の人が生きてきた時代背景を踏まえて現在の課題を考えることができる。			
4	<b>【授業単元】</b> 発達段階と発達課題② 身体的機能の成長・発達 発達段階別の特徴的な疾病 <b>【到達目標】</b> 誕生から幼児期までの身体的な成長と発達、運動機能の特徴について学び、発達障害や発達段階における特徴的な疾病や障害について理解することができる。				<b>【授業単元】</b> 老化に伴うところとからだの変化と日常生活① 恒常性、予備力、回復力、適応力、防衛力に関する変化 フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア <b>【到達目標】</b> 加齢に伴う生理機能の低下について学び、日常生活への影響を理解する。			
5	<b>【授業単元】</b> 発達段階と発達課題③ 心理的機能の発達 <b>【到達目標】</b> ピアジェの認知発達理論に沿った、誕生から青年期までの認知機能、言語発達について理解することができる。			1 2 / 1 3	<b>【授業単元】</b> 老化に伴うところとからだの変化と日常生活② 身体機能の低下と日常生活への影響 骨格系、筋系、脳・神経系、感覚器系、血液循環器系、呼吸器系、消化器系、腎泌尿器系、生殖系、内分泌・代謝系、免疫系 <b>【到達目標】</b> 加齢に伴う身体機能の低下について学び、日常生活への影響を理解する。			
6	<b>【授業単元】</b> 発達段階と発達課題④ 社会的機能の発達 <b>【到達目標】</b> 誕生から青年期までの社会性の発達について学び、愛着、道徳性の発達について理解することができる。			14	<b>【授業単元】</b> 前期を通して学んだ内容を振り返り、知識を確認する。 期末試験対策、まとめ。 <b>【到達目標】</b> 前期で学んだ内容を確認し、人の成長発達について考え、高齢者の特徴を理解した生活支援を実践する知識を身につけることができる。			
7	<b>【授業単元】</b> 人間の成長発達の基礎的理解、老年期の特徴と発達課題についての知識を確認する。中テスト対策、まとめ。 <b>【到達目標】</b> 今まで学んだ発達と老化に関する知識を確認し、介護の対象者の背景を発達の側面から考え、生活との関連性を考えることができる。			15	<b>【授業単元】</b> 前期を通して学んだ内容を振り返り、知識を確認する。 期末試験の実施 <b>【到達目標】</b> 前期で学んだ内容を確認し、人の成長発達について考え、高齢者の特徴を理解した生活支援を実践する知識を身につけることができる。			
8	<b>【授業単元】</b> 人間の成長発達の基礎的理解、老年期の特徴と発達課題についての知識を確認する。中テストの実施 今まで学んだ発達と老化に関する知識を確認し、介護の対象者の背景を発達の側面から考え、生活との関連性を考えることができる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。			
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>								
人の成長過程、ライフサイクルにおける高齢者の心理的、精神的変化とそれに伴う、課題や特徴を学びます。概念や理論など、アカデミックに考える部分と、高齢者を一人の人間と捉え、その人生に寄り添う想像力を持って学習しましょう。								

## 授 業 概 要

科目名	発達と老化の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	押山乃里子	
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>								
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な知識を習得する。								
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>								
看護・介護領域で臨床経験を積んだ看護師が、人間の、成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化と、ライフサイクルに応じた各段階の特徴を伝え、その知識を生活支援に活かし、利用者の状況に応じた適切な支援を行うことのできる介護福祉士の養成を目指す。								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>			
中央法規出版株式会社 最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 第2版 他								
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 老化に伴う社会的な変化と生活への影響 高齢者の社会活動の現状と課題と社会における老化理論 就労への影響			9	【授業単元】 高齢者と健康⑤ 内分泌・代謝系、歯・口腔			
	【到達目標】 高齢者が社会生活を送るなかで直面する課題を理解することができる。				【到達目標】 高齢者に多い内分泌・代謝系、歯・口腔の症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。			
2	【授業単元】 健康長寿に向けての健康 サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジング			10	【授業単元】 高齢者と健康⑥ 悪性新生物、感染症 精神 その他			
	【到達目標】 高齢者の健康とサクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジングの考え方を理解することができる。				【到達目標】 高齢者に多い悪性新生物、感染症の症状、精神疾患などの生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。			
3	【授業単元】 高齢者と健康① 骨関節系の疾患と症状、生活の留意点			11	【授業単元】 高齢者と健康⑦ 高齢者に多い症状・疾患の特徴			
	【到達目標】 高齢者に多い骨関節系の疾患と症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。				【到達目標】 高齢者に多い内分泌・代謝系、歯・口腔の症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。			
4	【授業単元】 高齢者と健康② 脳・神経系、皮膚・感覚器系			12	【授業単元】 老化に伴う心理的な変化① 知覚機能、記憶機能、知的機能			
	【到達目標】 高齢者に多い脳・神経系、皮膚・感覚器系疾患と症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。				【到達目標】 老化による知覚機能、認知機能の変化について理解し、生活への影響を理解することができる。			
5	【授業単元】 高齢者と健康③ 循環器系・呼吸器系			13	【授業単元】 老化に伴う心理的な変化② パーソナリティの変化			
	【到達目標】 高齢者に多い循環器系、呼吸器系疾患の症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。				【到達目標】 老化による知的機能とパーソナリティの変化について理解し、生活への影響を理解することができる。			
6	【授業単元】 高齢者と健康④ 消化器系、腎泌尿器系			14	【授業単元】 発達と老化の理解の科目内容を確認し、知識を確認する。 期末試験対策、まとめ			
	【到達目標】 高齢者に多い消化器系、腎泌尿器系の症状、生活の留意点を学び、介護実践に結び付けて考えることができる。				【到達目標】 発達と老化の理解の科目内容を確認し、国家試験に対応できる知識を身につけることができる。			
7	【授業単元】 老年期に多い疾患と症状の知識を確認する。中テスト対策、まとめ。			15	【授業単元】 発達と老化の理解の科目内容を確認し、知識を確認する。 期末試験の実施			
	今まで学んだ、老年期に多い疾患と症状の知識を生活との関連性から考え、介護実践の留意点を理解する。				【到達目標】 発達と老化の理解の科目内容を確認し、国家試験に対応できる知識を身につけることができる。			
8	【授業単元】 老年期に多い疾患と症状の知識を確認する。中テストの実施。			<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
	今まで学んだ、老年期に多い疾患と症状の知識を生活との関連性から考え、介護実践の留意点を理解する。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>								
人の成長過程、ライフサイクルにおける高齢者の心理的、精神的変化とそれに伴う、課題や特徴を学びます。概念や理論など、アカデミックに考える部分と、高齢者を一人の人間と捉え、その人生に寄り添う想像力を持って学習しましょう。								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験は筆記試験で行う。</li> <li>・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</li> </ul>								

## 授 業 概 要

科目名	認知症の理解 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	萩原直美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な学習を通して、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供することができるようになるために必要な知識を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師としての一般病棟・救急及び手術室・療養型病床における様々な状態像を対象とした臨床経験と地域の介護支援専門員としての実務経験をもつ担当教員が、認知症の人の暮らしをイメージできるような授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 第2版 (中央法規)					授業予定の教科書部分に事前に目を通して予習しておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 《オリエンテーション》 【第1章 認知症の基礎的理解(第1節 現状と今後・第2節 認知症とは)】				9	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第5節 原因疾患と症状)】			
	【到達目標】 ・認知症高齢者数の推移を説明することができる。 ・認知症の定義と診断基準を説明することができる。 ・認知症の特徴を説明することができる。					【到達目標】 ・認知症の原因疾患の病態について説明することができる。 ・認知症の原因疾患による症状の違いについて説明することができる。			
2	【授業単元】 【第1章 認知症の基礎的理解 (第4節 認知症の人の心理)】				10	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第6節 治療薬・第7節 予防)】			
	【到達目標】 ・認知症の人のこころの理解のために大切なことが述べられる。 ・不安や喪失感について説明することができる。					【到達目標】 ・治療薬の作用機序や副作用、効果の限界を説明することができる。 ・BPSDに用いられる薬の作用と副作用について説明することができる。 ・認知症予防の考え方について述べることができる。			
3	【授業単元】 【第1章 認知症の基礎的理解 (第3節 脳のしくみ)】				11	【授業単元】 【第3章 認知症ケアの歴史と理念(第1節 認知症の人を取り巻く状況)】			
	【到達目標】 ・脳の構造と機能について説明することができる。 ・認知症とせん妄、うつの違いを説明することができる。 ・老化と認知症の関係を説明することができる。					【到達目標】 ・認知症ケアの返還について説明することができる。 ・認知症施策の流れについて説明することができる。			
4	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第1節 中核症状の理解)】				12	【授業単元】 【第3章 認知症ケアの歴史と理念(第2節 認知症ケアの理念と視点)】			
	【到達目標】 ・中核症状とは何かを説明することができる。 ・代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を説明することができる。					【到達目標】 ・認知症ケアの理念と倫理について説明することができる。 ・認知症ケアにおける権利擁護について説明することができる。			
5	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第2節 生活障害の理解)】				13	【授業単元】 【第3章 認知症ケアの歴史と理念(第3節 当事者の視点からみえるもの)】			
	【到達目標】 ・認知症の生活障害の重要性について説明することができる。 ・IADL、ADL、参加の障害について説明することができる。					【到達目標】 ・認知症の人の思いを理解することの重要性を述べることができる。 ・認知症の人の体験が生活に及ぼす影響を説明することができる。			
6	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第3節 BPSDの理解)】				14	【授業単元】 【第3章 認知症ケアの歴史と理念(第3節 当事者の視点からみえるもの)】			
	【到達目標】 ・BPSDの定義について説明することができる。 ・BPSDの分類について説明することができる。 ・BPSDの要因(背景因子)について説明することができる。					【到達目標】 ・認知症の人の想いを尊重したサポート方法について述べることができる。			
7	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第3節 BPSDの理解)】				15	【授業単元】 科目まとめ、振り返り 《定期試験》 《定期試験解答解説》			
	【到達目標】 ・BPSDの誘因について述べることができる。 ・主なBPSDの特徴について説明することができる。					【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。			
8	【授業単元】 【第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 (第4節 診断と重症度)】 《中間試験》				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。 その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・認知症の診断基準について説明することができる。 ・認知機能を評価する検査について説明することができる。 ・認知症の重症度の評価法について説明することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
認知症を正しく理解し、一人ひとりに寄り添った支援をすることができるようになるために一緒に勉強していきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	こころとからだのしくみ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	内山 裕美・岡賢子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
看護師として大学病院や介護施設での勤務経験、大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、人間のこころとからだのしくみを理解する授業を行う									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 中央法規出版									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション 健康とは何か 生命を維持するしくみ <b>【到達目標】</b> ・健康の定義をふまえて健康とは何かを説明できる ・生命を維持するしくみを説明できる				17・18	<b>【授業単元】</b> 機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響 身じたくに関するこころとからだの変化の気づきと医療職などの連携 <b>【到達目標】</b> ・機能障害や障害が身じたくに及ぼす影響を説明できる ・身じたくに関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法が説明できる			
3・4	<b>【授業単元】</b> からだのしくみ 骨・関節・筋肉 <b>【到達目標】</b> ・骨、関節、筋肉の名称とはたらきを説明できる				19・20	<b>【授業単元】</b> からだのしくみ 消化器系 <b>【到達目標】</b> ・消化器系の名称とはたらきを説明できる			
5・6	<b>【授業単元】</b> 移動に関連したこころとからだのしくみ <b>【到達目標】</b> ・移動の意味、基本的な姿勢・体位保持のしくみを説明できる ・機能の低下・障害が及ぼす移動への影響(廃用症候群、骨折、褥瘡など)を説明できる ・移動に関する観察項目、多職種との連携と緊急対応の方法が説明できる				21・22	<b>【授業単元】</b> 食事に関連したこころとからだのしくみ <b>【到達目標】</b> ・食事と栄養について説明できる ・食欲・おいしさを感じる(空腹、満腹、食欲に影響する因子、視覚・味覚・嗅覚など) 食べるしくみ(咀嚼・嚥下)を説明できる			
7・8	<b>【授業単元】</b> 機能の低下・障害が移動に及ぼす影響 移動に関するこころとからだの変化の気づきと医療職などの連携 <b>【到達目標】</b> ・移動に関連する機能の低下・障害の原因(麻痺、骨粗鬆症、神経疾患などの病的要因、転倒)を説明できる。 ・機能の低下・障害が及ぼす移動への影響(廃用症候群、骨折、褥瘡など)を説明できる ・移動に関する観察項目、多職種との連携と緊急対応の方法が説明できる				23・24	<b>【授業単元】</b> 機能の低下・障害が食事及ぼす影響 食事に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などの連携 <b>【到達目標】</b> ・食事に関連する機能の低下・障害の原因や機能の低下、障害が及ぼす食事への影響を説明できる ・食事に関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法が説明できる			
9・10	<b>【授業単元】</b> からだのしくみ 呼吸器系 <b>【到達目標】</b> ・呼吸器系の名称とはたらきを説明できる				25・26	<b>【授業単元】</b> こころとからだのしくみ 脳・神経系 <b>【到達目標】</b> ・脳、神経系の名称とはたらきを説明できる			
11・12	<b>【授業単元】</b> からだのしくみ 循環器系 <b>【到達目標】</b> ・循環器系の名称とはたらきを説明できる				27・28	<b>【授業単元】</b> こころのしくみ <b>【到達目標】</b> ・脳とこころのしくみの関係を説明できる ・学習、記憶、感情、意欲、適応について説明できる			
13・14	<b>【授業単元】</b> 身じたくに関連したからだのしくみ <b>【到達目標】</b> ①眼・鼻・②爪・毛髪 ③口腔・歯・舌の名称とはたらきを説明できる				29・30	<b>【授業単元】</b> ・前期の振り返り 定期試験 <b>【到達目標】</b> 前期の内容を振り返りながら、知識の再習得ができる			
15・16	<b>【授業単元】</b> 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第1～15回までの振り返り <b>【到達目標】</b> ・身じたくの意味、口腔や毛髪を清潔に保つしくみ、更衣をするしくみを説明できる ・学習した内容を振り返りながら、知識の再習得ができる 中間試験				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
すべての教科につながる授業です。人間のこころやからだに興味を持ちながら、利用者のケアを安心・安全・安楽に実施することをイメージしながら学習しましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	こころとからだのしくみ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	内山 裕美・岡 賢子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する									
<b>【学習内容】</b> (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師として大学病院での勤務経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、人間のこころとからだのしくみを理解する授業を行う									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 中央法規出版									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 脳・神経系、こころのしくみの振り返り				17・18	【授業単元】 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 機能の低下・障害が休息・睡眠に及ぼす影響			
	【到達目標】 ・脳・神経系の名称、こころのはたらきを説明できる					【到達目標】 ・休息と睡眠のしくみについて説明できる ・休息と睡眠に関連する機能の低下・障害の原因と影響が説明できる			
3・4	【授業単元】 人間の欲求の基本的理解 自己概念と尊厳				19・20	【授業単元】 からだのしくみ 血液・リンパ 内分泌系 生殖系			
	【到達目標】 ・欲求について説明できる ・自己概念、尊厳について説明できる					【到達目標】 ・血液・リンパ、内分泌系、生殖系の名称とはたらきを説明できる			
5・6	【授業単元】 からだのしくみ 泌尿器系 排泄に関連したこころとからだのしくみ(排便) 機能の低下・障害が排泄に及ぼす影響				21・22	【授業単元】 人生の最終段階に関する「死」のとりえ方 「死」に対するこころの理解			
	【到達目標】 ・泌尿器系の名称とはたらきを説明できる ・尿の生成、排尿のしくみ(尿の性状、量、回数含む)を説明できる ・排泄に関連する機能の低下と障害の原因と排便に及ぼす影響を説明できる					【到達目標】 ・死のとりえ方を説明できる ・「死」に対する恐怖、不安を説明できる			
7・8	【授業単元】 排泄に関連したこころとからだのしくみ(排便) 機能の低下・障害が排泄に及ぼす影響 排泄に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などの連携				23・24	【授業単元】 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 終末期における医療職との連携			
	【到達目標】 ・排泄の意味、排泄における心理を説明できる ・尿の生成、排便のしくみ(便の性状、量、回数含む)を説明できる ・排泄に関連する機能の低下と障害の原因と排便に及ぼす影響を説明できる ・排泄に関する観察のポイントと多職種との連携、緊急対応の方法を説明できる					【到達目標】 ・終末期から危篤時の身体機能の低下の特徴が説明できる ・終末期から危篤時に行なわれる医療の実際、観察のポイント、介護の役割と医療との連携が説明できる			
9・10	【授業単元】 排泄に関連した事例検討				25・26	【授業単元】 事例検討			
	【到達目標】 ・排泄障害のある利用者の観察項目やケアの内容を考えることができる					【到達目標】 ・事例を通して、観察項目やケアの内容を考えることができる			
11・12	【授業単元】 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ				27・28	【授業単元】 国家試験問題にチャレンジ			
	【到達目標】 ・入浴、清潔保持の意味が説明できる ・皮膚、頭皮の汚れ・発汗のしくみが説明できる ・入浴の効果と作用、リラクセス、爽快感を感じるしくみが説明できる					【到達目標】 ・過去の国家試験問題を通して、自分の知識を確認する			
13・14	【授業単元】 機能の低下・障害が入浴・清潔保持に及ぼす影響 入浴・清潔保持に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などの連携				29・30	【授業単元】 こころとからだのしくみの振り返り			
	【到達目標】 ・入浴、清潔保持に関連する機能の低下・障害の原因と影響が説明できる ・循環器系、呼吸器系、皮膚の状態の変化を説明できる ・入浴・清潔保持に関する観察のポイント、多職種との連携、緊急対応の方法が説明できる					【到達目標】 ・学習への知識の活用を考えることができる 定期試験			
15・16	【授業単元】 脳・神経系、こころ、排泄、入浴と清潔保持の振り返り 中間試験				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・学習した内容を確認しながら、知識を再習得できる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
すべての教科につながる授業です。人間のこころやからだに興味を持ちながら、利用者のケアを安心・安全・安楽に実施することをイメージしながら学習しましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	介護福祉士総合講座 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	徳岡健男		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
わかりやすい文章の書き方を学ぶ講座である。また、文章を論理的に読むための講座である。まず、わかりやすい文章の書き方として相手本位の文章の具体的な書き方を学ぶ。特に客観と主観を明確にした報告書の具体例を学び、実習前の報告書を書くための準備として有益な講座である。そして、文章を論理的に読むために、起承転結や序論・本論・結論などの組み立てを学び、主旨を正確に読み取る力を養成する。文章の正確な主旨把握、要旨把握は国家試験合格に結びつく力になる。									
<b>【学習内容】</b>									
サービス業界での実務経験と社会人教育・専門学校教育での教員経験をもつ教員が、論理的でわかり易い文章の書き方を指導する。 また、授業実施後には文章を正確に読む力が身につく、実務に必要なわかりやすい文章を書くレベルに到達できる授業である。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
書名:「日本語練習帳」岩波新書 大野晋著					日常から文章になじんでほしい。特に新聞記事などを読むことを推奨したい。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 文章の書き方①わかり易い文章のポイント。				9	【授業単元】 報告書作成のために①			
	【到達目標】 実例から、わかり易い文章を考えてみる。					【到達目標】 語彙を増やし表現力をつける。 擬音を用いた文章練習。			
2	【授業単元】 文章の書き方②わかり易い文章のポイント。				10	【授業単元】 報告書作成のために②			
	【到達目標】 「自己PR」「志望動機」を書く。					【到達目標】 語彙を増やし表現力をつける。 擬音を用いた文章練習。			
3	【授業単元】 文章の書き方③わかり易い文章のポイント				11	【授業単元】 報告書作成のために③			
	【到達目標】 「報告書」の書き方を学ぶ。					【到達目標】 語彙を増やし表現力をつける。 擬音を用いた文章練習。			
4	【授業単元】 論理的に文章を読む。①(序論・本論・結論)『わかりやすさの勉強法』				12	【授業単元】 報告書作成のために④			
	【到達目標】 結論に至る流れを理解する。					【到達目標】 要点をまとめる文章の練習 文章要約トレーニング。			
5	【授業単元】 論理的に文章を読む。②(序論・本論・結論)『はやぶさ式思考法』				13	【授業単元】 報告書作成のために⑤			
	【到達目標】 結論に至る流れを理解する。					【到達目標】 要点をまとめる文章の練習 文章要約トレーニング。			
6	【授業単元】 論理的に文章を読む③(序論・本論・結論)『ローマから日本が見える』				14	【授業単元】 報告書作成のために⑥			
	【到達目標】 結論に至る流れを理解する。					【到達目標】 要点をまとめる文章の練習 文章要約トレーニング。			
7	【授業単元】 論理的に文章を読む④「下町ロケット」				15	【授業単元】 期末試験 学習した範囲から出題。			
	【到達目標】 描写から人物像を読み取る。					【到達目標】 解答・解説			
8	【授業単元】 中間試験。学習した範囲から出題。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 筆記試験は授業で確認した知識の定着度(1回～7回)を確認する。8回目～14回についても授業で確認した知識の定着度を確認する。また、各授業の中で小テストを実施し、小テスト40点・定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則の規定に準ずる。				
	【到達目標】 解答・解説								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
文章に親しむ。読み、書きを繰り返すことが文章上達のポイントです。									



## 授 業 概 要

科目名	介護福祉士総合講座 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	徳岡健男		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
わかりやすい文章の書き方を学ぶ講座である。また、文章を論理的に読むための講座である。まず、わかりやすい文章の書き方として相手本位の文章の具体的な書き方を学ぶ。特に客観と主観を明確にした報告書の具体例を学び、実習前の報告書を書くための準備として有益な講座である。そして、文章を論理的に読むために、起承転結や序論・本論・結論などの組み立てを学び、主旨を正確に読み取る力を養成する。文章の正確な主旨把握、要旨把握は国家試験合格に結びつく力になる。									
<b>【学習内容】</b>									
サービス業界での実務経験と社会人教育・専門学校教育での教員経験をもつ教員が、論理的でわかりやすい文章の書き方を指導する。また、授業実施後には文章を正確に読む力が身につく、実務に必要なわかりやすい文章を書くレベルに到達できる授業である。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
書名:「日本語練習帳」 岩波新書 大野晋著					日常から文章になじんでほしい。特に新聞記事などを読むことを推奨したい。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。				9	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章読理解①			
	【到達目標】 文章の組み立てを理解する。					【到達目標】 第28回介護福祉士過去問題を読む。			
2	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。				10	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章読理解②			
	【到達目標】 文章の組み立てを理解する。					【到達目標】 第29回介護福祉士過去問題を読む。			
3	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。				11	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章読理解③			
	【到達目標】 感想文を書く。わかり易く伝わる文章を意識する。					【到達目標】 第30回介護福祉士過去問題を読む。			
4	【授業単元】 天声人語から「起承転結」を学ぶ。				12	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章読理解④			
	【到達目標】 感想文を書く。わかり易く伝わる文章を意識する。					【到達目標】 第31回介護福祉士過去問題を読む。			
5	【授業単元】 小論文を書く①論文と作文の違いを学ぶ。				13	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章読理解⑤			
	【到達目標】 情緒が中心となり記述される文書と、理性的な文書の違いを理解する。					【到達目標】 第32回介護福祉士過去問題を読む。			
6	【授業単元】 小論文を書く②課題作文を書く。				14	【授業単元】 介護福祉士国家試験過去問題文章読理解⑥			
	【到達目標】 課題作文提出の準備。 文章全体の組み立てを考える。					【到達目標】 第33回介護福祉士過去問題を読む。			
7	【授業単元】 小論文を書く③下書きを準備する。				15	【授業単元】 期末試験。学習した全範囲から出題。			
	【到達目標】 文章組み立てをチェックし、文章を書いてみる。					【到達目標】 解答・解説			
8	中間試験。課題作文(小論文)の提出。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 1～7回目までは小論文課題の提出で評価(小テスト分20点)。9～14回目までは筆記試験で行なう。筆記試験は授業で確認した知識の定着度を確認する。9～14回目の授業の中で小テストを実施し、小テスト20点(1～7回の小論文課題20と合わせて40点となる)・定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則の規定に準ずる。				
	【到達目標】 解答・解説								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
論理的な文章を読み。論理的な文章を書く。									

## 授 業 概 要

科目名	介護みらいプログラム I	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	高橋 利明		
学科コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉科の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホーム施設長である教員が講義を担当する。授業内容はスマート介護士エキスパートの資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
スマート介護士 厚生労働省HP <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/0903.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/0903.pdf</a>					指定科目の学びの内容と本科目の内容を照らし合わせながら取り組むこと。「介護とは何か?」「何を指すのか」を常に念頭におきながら参加すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1(4/1)	【授業単元】 科目オリエンテーション「介護」ってなんだろう①				9(6/22)	【授業単元】 介護ってなんだろう③			
	【到達目標】 科目のねらいを理解するKJ法について理解する					【到達目標】 自立支援に向けた取り組みを事例から学ぶことができる「あおいけあ」の事例から			
2(4/20)	【授業単元】 介護ってなんだろう②				10(6/29)	【授業単元】 介護ってなんだろう④			
	【到達目標】 KJ法を使って介護に対するイメージや知識の広がりを感じることができる					【到達目標】 全国にある様々な取り組みを知ろう			
3(4/27)	【授業単元】 介護ロボット・ICTにふれてみよう①コミュニケーションロボットの体験				11(7/6)	【授業単元】 これからの介護の未来について考える			
	【到達目標】 介護ロボットにふれ、機能や役割を理解する。					【到達目標】 様々な取り組みから、改めて「介護とは何か?」を振り返ることができる			
4(5/11)	【授業単元】 介護ロボット・ICTにふれてみよう②見守りロボットについて理解する				12(7/13)	【授業単元】 介護ロボット・ICTにふれてみよう③			
	【到達目標】 コニカミルタの見守りセンサーを体験し、「見守り」について理解することができる					【到達目標】 ～内容未定。日程交渉中～			
5(5/18)	【授業単元】 介護ロボットってなんだろう③ <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/0903.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/0903.pdf</a>				13(7/20)	【授業単元】 スマート介護士について			
	【到達目標】 介護ロボットの種類を知る6分野13項目について理解する					【到達目標】 スマート介護士資格について知る演習問題にチャレンジ			
6(5/25)	【授業単元】 介護ロボットってなんだろう④ <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/0903.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/0903.pdf</a>				14(7/27)	【授業単元】 介護ロボット・ICTにふれてみよう④			
	【到達目標】 なぜ、介護ロボットが必要なのかを説明できるようになる					【到達目標】 介護記録の重要性を知る音声入力を体験する			
7(6/1)	【授業単元】 介護福祉士への期待と役割を知る <a href="https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakainengokushouzaikokenfukushibu-Kikaku/document2-1.pdf">https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakainengokushouzaikokenfukushibu-Kikaku/document2-1.pdf</a>				15(8/3)	【授業単元】 前期授業内容の理解度を固る			
	【到達目標】 介護ロボットやICTについて学ぶ意味を理解することができる					【到達目標】 前期の授業内容を振り返り、理解度を把握することができる			
8(6/8)	【授業単元】 7回目までの授業内容の理解度を固る				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 中間試験7回目までの授業内容を振り返り、理解度を把握することができる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
グループワークや周囲の意見を聞き、または発言し、全員が理解を深めるということ を授業の基本スタイルとする。									

## 授 業 概 要

科目名	介護みらいプログラム I	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	高橋 利明		
学科コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉科の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホーム施設長である教員が講義を担当する。授業内容はスマート介護士エキスパートの資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
厚生労働省HP「介護ロボットの導入パッケージモデル」 <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928398.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928398.pdf</a> スマート介護士					指定科目の学びの内容と本科目の内容を照らし合わせながら取り組むこと。「介護とは何か?」「何をを目指すのか」を常に念頭におきながら参加すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1(8/2)	【授業単元】 後期オリエンテーション介護ロボットについての知識を広げる「協働」について学ぶ  【到達目標】 後期のねらいを理解する				9(11/23)	【授業単元】 介護を取り巻く環境を理解する①～クローズアップ現代 デジタル介護最前線～の視聴 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=...">https://www.youtube.com/watch?v=...</a>  【到達目標】 業務改善、排遣予測、見守りセンサーの機器について調べることができる介護ロボットの導入が、			
2(8/31)	【授業単元】 介護ロボット新聞を作成しよう①  【到達目標】 国際福祉機器展のWEB展を閲覧し、介護ロボットやICTのトレンドを知ることができる				10(11/30)	【授業単元】 介護を取り巻く環境を理解する②～クローズアップ現代 デジタル介護最前線～の視聴 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=...">https://www.youtube.com/watch?v=...</a>  【到達目標】 科学的介護について理解する介護ロボット導入に向けた課題を知る			
3(9/7)	【授業単元】 介護ロボット新聞を作成しよう②  【到達目標】 テーマを設定し、介護ロボットやICT活用の意義、目的や内容について調べ、まとめることができる。				11(12/7)	【授業単元】 介護を取り巻く環境を理解する③～クローズアップ現代 デジタル介護最前線～の視聴 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=...">https://www.youtube.com/watch?v=...</a>  【到達目標】 介護ロボット導入に向けた支援や導入方法について知る			
4(10/12)	【授業単元】 介護ロボット新聞を作成しよう③  【到達目標】 テーマを設定し、介護ロボットやICT活用の意義、目的や内容について調べ、まとめることができる。				12(12/14)	【授業単元】 コニカミルタ特別授業①  【到達目標】 介護ICTの基礎を理解する2年次での学びについてイメージを持つことができる			
5(10/19)	【授業単元】 介護ロボット新聞を作成しよう④  【到達目標】 テーマを設定し、介護ロボットやICT活用の意義、目的や内容について調べ、まとめることができる。				13(12/21)	【授業単元】 介護ロボット・ICTにふれてみよう⑤  【到達目標】 介護現場におけるDXの最新情報について知ることができる介護業界のこれらについてイメージすることができる			
6(10/26)	【授業単元】 介護ロボット新聞を作成しよう⑤  【到達目標】 介護ロボット新聞づくりで学んだことを振り返ることができる				14(1/11)	【授業単元】  【到達目標】 1年間の学びの内容を整理することができる			
7(11/2)	【授業単元】 介護ロボット・ICTに関するゲスト講演社会福祉法人善光会 宮本隆史さん  【到達目標】 介護現場におけるDXの最新情報について知ることができる介護業界のこれらについてイメージすることができる				15(1/18)	【授業単元】 定期試験  【到達目標】 学びの理解度を把握することができる			
8(11/16)	【授業単元】 7回目までの授業内容の理解度を図る  【到達目標】 中間試験7回目までの授業内容を振り返り、理解度を把握することができる				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
グループワークや周囲の意見を聞き、または発言し、全員が理解を深めるということを授業の基本スタイルとする。									

## 授 業 概 要

科目名	介護福祉士科総合講座Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	岡 賢子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
養成目的を見据え、介護福祉士としての視点を高めることができる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
保健福祉医療分野において現場実践を経験し、介護教員としての指導経験を持つ教員が、介護の専門性と誠実な介護を実践する人間性を養うための授業を行う。 学生が、クラスや学年での係活動、学科や学校行事、地域や業界への社会貢献活動への参加を通してSDGsの理念を意識し、介護福祉士として期待される基									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
教科書指定なし					より良い介護が実践できる介護福祉士になるために、常に介護福祉士としての倫理観に基づいた思考と行動を意識する。 自分も含めた人間に興味を持ち、介護以外にも多様な経験ができるよう行動する。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション クラス目標、クラスの係の決定…主体性、働きかけ力、実行力について スキルアップデーについて  <b>【到達目標】</b> クラス全員が目指す1年間のクラス目標を決定することができる。 クラスでの自分の役割を確認し、クラスのために自分に何が出来るかを考え行動につなげることができる。				9	<b>【授業単元】</b> デイサービス実習を終えて感じた、自分たちに必要なプロとしての力について考える。  <b>【到達目標】</b> 実習を振り返り、自分たちに必要な力を学校生活の中でどのようにつけていくかを考えることができる。			
2	<b>【授業単元】</b> 清新町ふれあい祭りに向けた準備① 江戸川区SDGsの確認 介護を学ぶ学生が地域活動に参加する意義…課題発見力、計画力、創造力について 学生面談について  <b>【到達目標】</b> 介護における地域とのつながりの大切さを知り、自分たちが地域にどのような貢献ができるか考えることができる。				10	<b>【授業単元】</b> 介護福祉士としての目標設定 自分が今のうちにやっておきたいこと、すべきことを考える 専門バカにならないために  <b>【到達目標】</b> 自分が学生のうちに経験しておきたいことを挙げ、それが介護福祉士としての将来の自分に与える影響を考えることができる。			
3	<b>【授業単元】</b> 清新町ふれあい祭りに向けた準備② 地域貢献活動で考えなければならない要素…発信力、傾聴力、柔軟性、情況把握力、規律性について 実習に向けた準備の必要性和多重課題に向けたセルフマネジメントとストレスコントロール力について  <b>【到達目標】</b> 自分たちの活動を、地域のニーズに合わせて具体的に計画し準備することができる。 多重課題に向かうためのセルフマネジメントの方法を学ぶことができる。 セルフマネジメントの必要性を理解する。				11	<b>【授業単元】</b> プロとして優秀な人が持っている特徴と求められる介護福祉士像について 信頼感・熱意・勤勉さ・生産性・協働性・誠実さ・責任感・品格  <b>【到達目標】</b> 求められる介護福祉士像と、プロとして持っておきたい資質について考えることができる。			
4	<b>【授業単元】</b> 清新町ふれあい祭り準備…チームで考えて計画する 実習準備 江戸川区SDGs取り組みをクラスの行動レベルに置き換えて考える  <b>【到達目標】</b> 自己の役割や優先順位を考え、自分が今何をやるかを考えることができる。 他者と協力して取り組みに対する行動レベルの準備を整えることができる。 江戸川区SDGsの行動指針をクラスとしての活動として考えることができる。				12	<b>【授業単元】</b> 施設実習について 期末試験に向けての学習の取り組み状況の確認(個人・クラス)と具体的な計画  <b>【到達目標】</b> 施設実習について、デイサービス実習との違いを踏まえた準備の必要性を考えることができる。 期末試験に向けた取り組みを具体的に計画することができる。			
5	<b>【授業単元】</b> 清新町ふれあい祭り振り返り 江戸川区SDGs取り組みの確認 中試験・定期試験について  <b>【到達目標】</b> 地域活動への参加を振り返り、自分たちが地域から何を期待されているのか考え、今後の地域活動参加に向けた考え方の素地を作ることができる。 試験勉強を、個人、クラスとしてどのように取り組むか考え、計画的に学習を進める準備ができる。				13	<b>【授業単元】</b> 実習準備 国家試験に向けた学習について 夏休みについて  <b>【到達目標】</b> 国家試験に向けた学習方法について学ぶことができる。 夏休みの過ごし方について考えることができる。			
6	<b>【授業単元】</b> 実習準備 中試験に向けての学習計画について  <b>【到達目標】</b> 試験勉強に対する、個人、クラスとしての取り組み状態を確認し、効果的な方法を考えることができる。				14	<b>【授業単元】</b> 実習準備 定期試験準備  <b>【到達目標】</b> 実習、定期試験を受けるための準備を整えることができる。			
7	<b>【授業単元】</b> 実習準備…ユニフォーム贈呈式(変更あり) ストレスコントロールについて(多重課題・人間関係)  <b>【到達目標】</b> 試験、実習を控えて、自分が感じている良いストレスと悪いストレスについて考えることができる。				15	<b>【授業単元】</b> 前期成績評価・進級判定、特別補講について 夏休みの過ごし方 夏休み後のスケジュール確認…実習、学園祭  <b>【到達目標】</b> 成績評価の方法を確認し、理解することができる。 夏休みの課題と過ごし方、今後のスケジュールに合わせた準備の必要性について理解することができる。			
8	<b>【授業単元】</b> 入学から今までを振り返り、個人として、クラスとしての現状と課題を考える。 クラス目標に対する中間評価  <b>【到達目標】</b> 個人、クラスの現状を把握し、課題に対してどのように取り組むのかを具体的に考えることができる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
東京福祉専門学校介護福祉士科では、利用者の立場に立ったより良い介護をするためには、介護する人の人間力が重要だと考えています。知識や技術の習得だけでなく、個人、クラスがプロフェッショナルとして成長できるよう、いろいろな考え方を柔軟に吸収し、自分たちがこれからの介護を担う責任感と楽しみを感じながら授業に参加してください。									

## 授 業 概 要

科目名	介護福祉士科総合講座Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	岡 賢子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 養成目的を見据え、介護福祉士としての視点を高めることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 保健福祉医療分野において現場実践を経験し、介護教員としての指導経験を持つ教員が、介護の専門性と誠実な介護を実践する人間性を養うための授業を行う。 学生が、クラスや学年での係活動、学科や学校行事、地域や業界への社会貢献活動への参加を通してSDGsの理念を意識し、介護福祉士として期待される基									
【使用教科書・教材・参考図書】 教科書指定なし					【授業時間外における学習】 より良い介護が実践できる介護福祉士になるために、常に介護福祉士としての倫理観に基づいた思考と行動を意識する。 自分も含めた人間に興味を持ち、介護以外にも多様な経験ができるよう行動する。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> 夏休みの報告会 夏休みの使い方に対する学習面・生活面を自己評価 学園祭について 学生面談について  <b>【到達目標】</b> 夏休みの過ごし方を評価し、夏休み明けからの学習面、生活面での行動の仕方を具体的に考えることができる。				9	<b>【授業単元】</b> 国際社会と介護について  <b>【到達目標】</b> 介護にかかわる国際化に対して、日本の介護を担う介護福祉士に必要な多様性の理解と、そのために必要なスキルについて考えることができる。			
2	<b>【授業単元】</b> 人間関係でのアサーティブな対応とは 実習準備 学園祭関連  <b>【到達目標】</b> アサーティブなコミュニケーションを学び、クラスメイトと協働するための人間関係を築く方法について考えることができる。				10	<b>【授業単元】</b> 自分の目標とする介護福祉士像について 入学前教育で考えていた介護と、現時点で目標とする介護を比較する  <b>【到達目標】</b> 介護福祉士としての将来の自分の目標を確認し、それに向かうための具体的な行動を考えることができる。			
3	<b>【授業単元】</b> 施設実習直前…学生が施設実習で困ったことを事例で考える 実習準備 学園祭関連  <b>【到達目標】</b> 実習に対する先入観からくる不安についてを考え、必要な準備をすることができる。				11	<b>【授業単元】</b> 自己の介護観について考える  <b>【到達目標】</b> テーマに沿ったディベートを通して、現時点の介護観を確認することができる。			
4	<b>【授業単元】</b> 実習後関連 学園祭準備 2年生のオールジャパンコンテストについて  <b>【到達目標】</b> 実習、学園祭と続くプログラムに対して、計画的に準備に取り組むことができる。 クラスメイトと協力して取り組むことができる。				12	<b>【授業単元】</b> 介護を必要としている人の現状の課題について動画で考える。介護福祉士の役割について考える 冬休みの過ごし方について  <b>【到達目標】</b> 介護を必要としている人の現状の課題を通して、求められる介護福祉士の役割について考えることができる。 冬休みの過ごし方を確認し、過ごし方を計画的に考えることができる。			
5	<b>【授業単元】</b> 学園祭直前準備  <b>【到達目標】</b> 学園祭の準備を通して、各自が主体的に考え、クラスメイトと協働し、納得がいくものを作り上げることができる。				13	<b>【授業単元】</b> 実習準備 定期試験までの学習の計画を考える  <b>【到達目標】</b> 実習、定期試験に向けて、計画的に準備することができる。			
6	<b>【授業単元】</b> 学園祭後関連 中試験に向けての学習計画について  <b>【到達目標】</b> 試験勉強に対する、個人、クラスとしての取り組み状況を確認し、効果的な方法を考えることができる。				14	<b>【授業単元】</b> 実習準備 定期試験準備  <b>【到達目標】</b> 実習、定期試験を受けるための準備を整えることができる。			
7	<b>【授業単元】</b> プロとアマチュア、プロ意識について  <b>【到達目標】</b> プロとアマチュアの違いについて学び、プロとしてプロ意識(自分の仕事に対する信念や熱意)を持つことの必要性について学ぶことができる。				15	<b>【授業単元】</b> 後期成績評価・進級判定、特別補講について 実習準備  <b>【到達目標】</b> 成績評価の方法を確認し、理解することができる。 実習に向けて計画的に準備することができる。			
8	<b>【授業単元】</b> 自信を持つとは…こころからだの連動性について考える 江戸川区SDGs行動指針に沿ったクラスの活動確認  <b>【到達目標】</b> セルフイメージと身体反応の連動性を知り、自信を持つために必要な要素を学ぶことができる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テスト、提出物の合計を60点とし、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 東京福祉専門学校介護福祉士科では、利用者の立場に立ったより良い介護をするためには、介護する人の人間力が重要だと考えています。知識や技術の習得だけでなく、個人、クラスがプロフェッショナルとして成長できるよう、いろいろな考え方を柔軟に吸収し、自分たちがこれからの介護を担う責任感と楽しみを感じながら授業に参加してください。									

## 授 業 概 要

科目名	社会の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	佐藤紀子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
生活の基本機能とライフサイクルの変化と、家族・社会・組織・地域社会の概要を理解する。社会保障制度の概要を理解する。									
介護福祉の発展とともに、介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士の国家資格を取得し、介護実践現場と教育の場で仕事をしたい。その経験と思いを伝える。									
<b>使用教科書</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
「介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版」中央法規出版					毎日ニュースをみて、世の中の出来事に関心を持つように心がけること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション(教員の自己紹介、授業の内容、学習方法を示す)				9	【授業単元】 ・地域共生社会			
	【到達目標】 授業の概要を知り、介護福祉士にとって大事な科目であることが理解できるようになる。					【到達目標】 地域社会推進の基本的な考え方を理解することができる。			
2	第1章(①) 社会と生活のしくみ・生活				10	【授業単元】 ・地域共生社会と地域包括ケア			
	【到達目標】 生活とは何かの視点を理解することができる。					【到達目標】 地域共生社会が目指す社会像の概要を理解することができる。			
3	・ライフスタイルの変化				11	【授業単元】 社会保障制度・社会保障の基本的な考え方			
	【到達目標】 ライフスタイルの変化の推移を具体的に理解することができる。					【到達目標】 社会保障の基本的な考え方を理解できる。			
4	【授業単元】 ・家族機能と役割				12	【授業単元】 ・社会保障制度の概要			
	【到達目標】 家族の概念とその変化を理解できる。					【到達目標】 ・社会保障制度の目的と機能の概要をつかむことができる。			
5	【授業単元】 ・社会、組織の機能と役割				13	【授業単元】 ・社会保障制度のしくみ			
	【到達目標】 社会、組織の役割と生活について理解できる。					【到達目標】 社会保障制度の実施体制の基本を知ることができる。			
6	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策・地域社会				14	【授業単元】 現代社会の社会保障制度の課題			
	【到達目標】 地域、地域社会、コミュニティーの概念を理解することができる。					【到達目標】 現代社会の社会保障制度の課題を3つあげることができる。			
7	【授業単元】 ・地域社会における生活支援				15	・前期・後半のまとめ			
	【到達目標】 地域社会の生活支援の実際の概要を理解できる。					【到達目標】 定期試験			
8	【授業単元】 ・前期前半のまとめ				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 中間試験								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
・日ごろから、人々の生活と地域社会の関わりに関心を持つようにする。									

## 授 業 概 要

科目名	社会の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	佐藤紀子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
日本の高齢者福祉と介護保険制度等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得することができる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
介護の発展過程で、介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士の国家資格を取得した。介護実践現場と教育機関で働きながら、求められる介護職になるために、研修の在り方の研究をしてきた。学習内容に照らし経験を伝えたい。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
『介護福祉士福祉士養成講座2 社会の理解』第2版 中央法規出版					毎日のニュースを見る。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第4章 高齢者保健福祉制度と介護保険制度 ・高齢者保健福祉の動向				9	【授業単元】 ・介護サービスの利用の手続きとサービスの種類			
	【到達目標】 変化をもたらした社会的背景と施策のポイントを理解する。					【到達目標】 介護サービスにおけるサービスの利用とサービスの種類の概要のポイントを理解する。			
2	【授業単元】 ・高齢社会対策基本法				10	【授業単元】 第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 ・障害者基本対策法			
	【到達目標】 高齢社会対策基本法の概要を理解できる。					【到達目標】 障害者基本法の目的と障害福祉の理念を理解できる。			
3	【授業単元】 ・老人福祉法と高齢者医療確保法				11	【授業単元】 障害者総合支援制度			
	【到達目標】 老人福祉法と高齢者の医療の関係を理解する。					自立支援給付と地域生活支援事業の概要を理解できる。			
4	【授業単元】 ・介護保険制度				12	・障害児に関する支援制度			
	【到達目標】 介護保険制度創立の背景と目的を理解する。					障害児に関する支援の概要を理解できる。			
5	【授業単元】 ・介護保険制度のしくみ				13	【授業単元】 介護実践に関連する諸制度 ・個人の権利			
	【到達目標】 介護保険制度における「保険者」と「被保険者」の関係を理解できる。					【到達目標】 個人の権利を守るための制度の概要を理解できる。			
6	【授業単元】 ・介護保険制度				14	【授業単元】 ・地域生活を支援する制度			
	【到達目標】 介護保険制度において、保険者・国、都道府県の役割のポイントを理解できる。					【到達目標】 就労支援・雇用促進に関する法律の概要を理解する。			
7	【授業単元】 ・介護保険法の保険給付				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 保険給付の概要を理解することができる。					【到達目標】 後期授業を振り返ることができる。			
8	【授業単元】 中間試験				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 後期授業のポイントを振り返ることができる。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
世の中の出来事に関心を持って生活するように心得る。									



## 授 業 概 要

科目名	地域共生学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期後半後期前半	担当 教員	小倉健吾・堀延之・上條優太		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護福祉士として、もしくは住民として、地域共生社会の実現に貢献するための実践を、制度や施策、資源を活用しつつ取り組むことができるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保健福祉医療分野において利用者個々の状態や状況に応じた介護実践を経験した教員と、介護・保育・ソーシャルワーク専門職養成のマネジメントに携わってきた教員が協働し、介護福祉士の専門性を活かした視点拡大をバックアップし、学習者主体のプロジェクト学習を中心とした学びをコーディネーターする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しないが、既習科目の教科書や配布資料等を参照しながら学びを深めること。合わせて授業内で関連資料を配布する。					日頃から地域共生に関わる取り組みについて関心を持ち、情報収集すること。プレゼンテーションの制作などは計画立てをして取り組むこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 「地域共生社会」が求められる背景を理解する				9	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを実践する1 フィールドワーク・ツール制作等			
	【到達目標】 なぜ日本において「地域共生社会」が目指す方向性を、現代の社会背景をふまえて説明することができる。					【到達目標】 自治体の施策との関係性、活用できる制度やサービス、インフォーマルな資源等に着目する。介護福祉士としての専門性を活かした視点や実践を示す。誰もがわかりやすい報告になるよう配慮する。			
2	【授業単元】 地域共生社会が目指す「4つの視点」について理解する。				10	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを実践する2 フィールドワーク・ツール制作等			
	【到達目標】 地域共生社会における「4つの視点(改革の骨格)」について具体的に述べることができる。地域共生社会と地域包括ケアシステムの関係性について説明することができる。					【到達目標】 自治体の施策との関係性、活用できる制度やサービス、インフォーマルな資源等に着目する。介護福祉士としての専門性を活かした視点や実践を示す。誰もがわかりやすい報告になるよう配慮する。			
3	【授業単元】 「地域共生」や「地域包括ケア」に取り組む多様な事例を知る1				11	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを実践する3 フィールドワーク・ツール制作等			
	【到達目標】 「地域共生」に取り組む具体的な事例についてグループで協働して調べる。その上で、その地域の特性や関わる主体や活用されている資源について整理する。					【到達目標】 自治体の施策との関係性、活用できる制度やサービス、インフォーマルな資源等に着目する。介護福祉士としての専門性を活かした視点や実践を示す。誰もがわかりやすい報告になるよう配慮する。			
4	【授業単元】 「地域共生」や「地域包括ケア」に取り組む多様な事例を知る2				12	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを実践する4 フィールドワーク・ツール制作等			
	【到達目標】 各グループで調べたことのプレゼンテーションを通して多様な事例における相違点を比較する。					【到達目標】 自治体の施策との関係性、活用できる制度やサービス、インフォーマルな資源等に着目する。介護福祉士としての専門性を活かした視点や実践を示す。誰もがわかりやすい報告になるよう配慮する。			
5	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを考える1取り組むテーマの提示				13	【授業単元】 実践活動報告1			
	【到達目標】 取り組むテーマの選択肢の提示を受けた上で、計画立案に向けて活用可能な資源やツールについて、具体的に理解する。					【到達目標】 地域共生社会が目指す「4つの視点(改革の骨格)」との関係性を示す。応用や拡張方法について考えることができる。			
6	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを考える2自身が取り組むテーマの選択				14	【授業単元】 実践活動報告2			
	【到達目標】 提示されたテーマの中から、自身の興味関心に応じて取り組みたいことを選択する。					【到達目標】 地域共生社会が目指す「4つの視点(改革の骨格)」との関係性を示す。応用や拡張方法について考えることができる。			
7	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを考える3実践計画の立案				15	【授業単元】 学習の振り返り			
	【到達目標】 地域共生社会に資する実践をするにあたってのプロセスを理解し、行動計画を立てる。					【到達目標】 卒業後介護福祉士としてもしくは住民(市民)として、地域共生社会の実現に取り組んでいく視点を明確に具体的な行動をイメージすることができる。			
8	【授業単元】 介護福祉士として地域共生社会の実現に貢献できることを考える4プレゼンテーションおよびディスカッション				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 1回目から7回目、9回目から14回目は小テスト実施またはリフレクションペーパーの提出を評価とする。 中間テストは、8回目はプレゼンテーションの教員評価および自己評価で換算する。 定期試験は、13回目または14回目のプレゼンテーションの評価と、15回目の論述試験を換算する。 評価基準についてはルーブリック評価表を授業内であらかじめ提示する。				
	【到達目標】 プレゼンテーションおよび質疑応答を通して、自身が取り組むテーマについてわかりやすく説明することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
クラスメイトやグループメンバーの価値観や得意不得意を尊重してと取り組むことが求められます。みなさんの多様な価値観やアイデアを発揮し、好奇心をもって取り組むことを期待します。									

## 授 業 概 要

科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	永嶋 文晴		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人間の多面的な理解を基礎に、介護福祉士としての倫理基盤、コミュニケーションの基礎、チームで働く能力を養うとともに、演習を通じてそれらに必要な技術を学ぶ									
【学習内容】									
特養・デイサービス・グループホームで介護職や相談援助職、管理職に従事している者が、対人援助関係の基礎となるコミュニケーションや介護実践に必要なチームマネジメントや人材育成・自己研鑽、組織の役割等について実例を交えた講義・演習を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版 介護福祉士養成講座 1 人間の理解									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 科目オリエンテーション 第2章 人間関係とコミュニケーション (第1節 人間と人間関係)①				9	【授業単元】 中間試験の解答・解説 第3章 介護実践におけるチームマネジメント			
	【到達目標】 人間関係の中での自分と他者の理解について説明することができる 「自己覚知」「自己開示」について説明することができる					【到達目標】 「ヘッドシップ」「リーダーシップ」「マネジメント」とは何か説明することができる			
2	【授業単元】 第2章 人間関係とコミュニケーション (第1節 人間と人間関係)②				10	【授業単元】 第3章 介護実践におけるチームマネジメント (第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義)			
	【到達目標】 人間の発達について「発達心理学」と「社会心理学」の側面から人がどのように他者や集団と関わり、成長するのかを述べるができる					【到達目標】 介護サービスの特性を理解するとともに介護サービスと他のサービスとの相違点について説明することができる 介護実践においてチームマネジメントが必要とされる背景について説明することができる			
3	【授業単元】 第2章 人間関係とコミュニケーション (第1節 人間と人間関係)③				11	【授業単元】 第3章 介護実践におけるチームマネジメント (第2節 ケアを展開するためのチームマネジメント)			
	【到達目標】 ストレスとは何かを説明することができる 人間関係等の様々な要因から生じるストレスへの応じ方について説明することができる					【到達目標】 ケアを展開するためのチームのあり方や必要な機能について説明することができる チームの力を発揮するうえで必要となる、リーダーシップ、フォロワーシップについて学ぶ			
4	【授業単元】 第2章 人間関係とコミュニケーション (第2節 対人関係におけるコミュニケーション)①				12	【授業単元】 第3章 介護実践におけるチームマネジメント (第3節 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント)			
	【到達目標】 コミュニケーションとは何かを理解するとともに、その特性や構造について説明することができる 言語的コミュニケーションの機能や特性について説明することができる					【到達目標】 キャリアに応じて求められる実践力とチームケアのために必要な実践力とは何かを説明することができる 人材育成の仕組み(方法)であるOJT・Off-JT等について説明することができる 自分自身のキャリアをイメージすることができる			
5	【授業単元】 第2章 人間関係とコミュニケーション (第2節 対人関係におけるコミュニケーション)②				13	【授業単元】 第3章 介護実践におけるチームマネジメント (第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント)			
	【到達目標】 コミュニケーションとは何かを理解するとともに、その特性や構造について説明することができる 非言語的コミュニケーションの機能や特性について説明することができる					【到達目標】 介護サービスにおいて、組織がどのような役割・機能を果たしているのかを説明することができる 組織がどのような構造でどのように管理されているのかを説明することができる			
6	【授業単元】 第3章 人間関係とコミュニケーション (第3節 対人援助関係とコミュニケーション)				14	【授業単元】 第2章・第3章の振り返り			
	【到達目標】 人間関係がどのように展開(発展・後退)をするのかを説明することができる 対人援助職に求められるコミュニケーションの基本姿勢について説明することができる					【到達目標】 これまでの授業内容についての自分自身の理解度を知るとともに、自身の課題を明らかにする			
7	【授業単元】 第2章 人間関係とコミュニケーション (第4節 組織におけるコミュニケーション)				15	【授業単元】 期末テスト テスト解説			
	【到達目標】 組織とは何かを説明することができる 組織における情報の流れや求められるコミュニケーションについて説明することができる					【到達目標】 これまでの授業内容についての自分自身の理解度を知る			
8	【授業単元】 ①～⑦までの振り返り 中間テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
	【到達目標】 ①～⑦までの自分自身の理解度を知る				・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

## 授 業 概 要

科目名	介護の基本Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡邊尚太		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
その人らしい生活を支援する専門職として基本となる考え方や姿勢を学び、介護福祉士として理解しておく事項の学びを深める									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護職経験者である者が、介護サービスが介護福祉士にチームマネジメントが求められる背景と全体像について講義し、多職種協働のあり方や、チームの力を最大限に発揮する取り組みの理解が深まるよう授業します。また、人材育成・自己研鑽について、実例を挙げ、学びます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護福祉養成講座 1 人間の理解									
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 第1章 介護福祉士の基本となる理念 介護福祉士を取り巻く状況  【到達目標】 導入 介護福祉士の基本理念を確認すること 介護福祉士を取り巻く状況を整理し、現代の介護福祉士としての役割を確認する				9	【授業単元】 第4章 自立に向けた介護 介護福祉における自立支援  【到達目標】 介護福祉士としてどのような自立支援が行えるか、理解を深める			
2	【授業単元】 介護サービスと家族介護 平均寿命の延伸とその理由  【到達目標】 家族介護の形が変わり、介護の「社会化」の中で、どのように利用者に関わるかを学ぶ				10	【授業単元】 第2節 ICFについて  【到達目標】 介護におけるICFの捉え方を理解する			
3	【授業単元】 第2節 介護福祉の歴史 介護福祉の基本理念  【到達目標】 福祉・介護の歴史の変遷を学び、現在の「介護」に至るまでの過程を学び、介護福祉士に求められる役割を確認する				11	【授業単元】 第3節 自立支援とリハビリテーション リハビリテーションの実際・介護予防  【到達目標】 自立支援に求められるリハビリテーションを学び、障害の程度とその評価について理解を深める			
4	【授業単元】 第2章 介護福祉士の役割と機能 社会福祉士及び介護福祉士法  【到達目標】 介護福祉士の役割を学び、その根拠となる法律の変遷を理解することで、求められる役割を再確認する				12	【授業単元】 リハビリテーションの理念 リハビリテーションにおける介護福祉士の役割  【到達目標】 リハビリテーションの中の自立支援の考え方の理解を深め、その中で介護福祉士の役割を学ぶ			
5	【授業単元】 第2節 介護福祉士の活動の場と役割  【到達目標】 地域包括ケアシステムの理解、介護予防や医療的ケアについて学びを深める				13	【授業単元】 第4節 自立支援と介護予防 介護予防の概要  【到達目標】 介護予防の概要、種類と展開方法について学ぶ			
6	【授業単元】 第3節 介護福祉士に求められる役割とその養成 介護福祉士教育について  【到達目標】 福祉専門職に求められる役割を学び、介護福祉士へ期待されていることを学ぶ				14	【授業単元】 介護予防の実際  【到達目標】 高齢者の身体的特性と介護予防について学び、なぜ、介護予防が重要かを学ぶ			
7	【授業単元】 介護福祉士を支える団体 第3章 介護福祉士の倫理  【到達目標】 介護実践における倫理、倫理的対応について 介護福祉士倫理綱領				15	【授業単元】 期末テスト  【到達目標】			
8	中テスト				【成績評価の方法と基準】				
					出席日数 授業態度 試験				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

## 授 業 概 要

科目名	介護の基本Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡邊尚太		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援する為の仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
介護職経験者である者が、介護サービスが介護福祉士にチームマネジメントが求められる背景と全体像について講義し、多職種協働のあり方や、チームの力を最大限に発揮する取り組みの理解が深まるよう授業します。また、人材育成・自己研鑽について、実例を挙げ、学びます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護福祉養成講座 介護の基本Ⅱ									
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 第1章 介護福祉を必要とする人の理解 第1節 私達の生活の理解  【到達目標】 介護福祉士を必要とする人の理解と同時に私達がどのように生活が成り立っているかを学ぶ				9	【授業単元】 第3章 介護における安全の確保 第1節 介護における安全の確保 第2節 リスクマネジメントとは何か  【到達目標】 介護におけるリスクマネジメントを学び、現場での事故対策に活かす			
2	【授業単元】 第2節 介護福祉を必要とする人たちの暮らし  【到達目標】 介護福祉士を必要とする人たちの理解を深め、その立場に立った考え方を学ぶ				10	【授業単元】 第3節 感染症対策 様々な感染症対策とその意義  【到達目標】 感染症対策を学び、現場での感染症対策に活かす。			
3	【授業単元】 第3節 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 「その人らしさ」とは何か  【到達目標】 「その人らしさ」と「自分らしさ」の違いを認識し、その人らしさの為の真のニーズの探り方を学ぶ				11	【授業単元】 第4章 協働する多職種の機能と理解 第1節 多職種連携・協働の必要性 第2節 多職種連携・協働に求められる基本的な能力  【到達目標】 協働する多職種の機能を学び、理解を深める IPW/IPE			
4	【授業単元】 第4節 生活のしづらさの理解と支援 生活のしづらさについて考える  【到達目標】 障害を負われた方々の生活障害を学ぶ				12	【授業単元】 第3節 保険・医療・福祉職の役割と機能 第4節 多職種連携・協働の実際  【到達目標】 多職種連携の実際を学び、現場での連携方法についての学びを深める			
5	【授業単元】 第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組み 第1節 生活を支えるフォーマルサービス  【到達目標】 生活を支えるフォーマルサービスの種類と活用方法を学ぶ				13	【授業単元】 第5章 介護従事者の安全 第1節 健康管理の意義と目的 第2節 心の健康管理  【到達目標】 介護職員自身の健康管理の意義を学び、就業の際のストレスマネジメントの理解を深める			
6	【授業単元】 第2節 生活を支えるインフォーマルサービスとは 私的サービスとは  【到達目標】 生活を支えるインフォーマルサービスの種類とその活用方法を学び、実践例を学ぶ				14	【授業単元】 第3節 身体の健康管理 第4節 労働環境の整備  【到達目標】 介護職自身の身体の健康管理と、職場の労働環境及び労働関係法令を学ぶ			
7	【授業単元】 第3節 地域連携とは 地域連携の意義と目的  【到達目標】 地域連携の意義と目的を学び、地域連携の実践例を学ぶ				15	【授業単元】 期末テスト  【到達目標】 ⑨～⑩到達度の確認			
8	中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ①～⑦到達度の確認				出席日数 授業態度 試験				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

## 授業概要

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	永嶋 文晴		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学ぶとともに、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う									
【学習内容】									
特養・デイサービス・グループホームで介護職や相談援助職、管理職に従事している者が介護実践に必要なコミュニケーション技術を習得するための授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中央法規出版 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 科目オリエンテーション 第1章 介護におけるコミュニケーションの基本 第2章 コミュニケーションの基本技術(第1節 コミュニケーション態度に関する基本技術)				9	【授業単元】 第4章 家族とのコミュニケーション (第2節 家族への助言・指導・調整・第3節 家族関係と介護ストレスへの対応)			
	【到達目標】 ・介護におけるコミュニケーションの意義を説明することができる ・介護福祉職の職務におけるコミュニケーションの役割を説明することができる ・援助関係におけるコミュニケーションのあり方を説明することができる ・介護福祉職に求められるコミュニケーション態度について説明することができる					【到達目標】 利用者のより良い生活を実現するための、家族への助言・指導の具体的方法を説明できる 家族を支援する際の視点と家族関係やに応じたコミュニケーションの方法を説明することができる			
2	【授業単元】 第2章 コミュニケーションの基本技術 (第2節 言語・非言語・単言語コミュニケーションの基本・第3節 目的別のコミュニケーション技術 第4節 集団におけるコミュニケーション技術)				10	【授業単元】 第4章 家族とのコミュニケーション (第3節 家族関係と介護ストレスへの対応)			
	【到達目標】 言語・非言語・非言語コミュニケーションとは何か、その機能・役割について説明できる 利用者の意欲を高めたり、事実を共有するための技術とはどのようなものかを説明できる 利用者の意思決定支援の考え方を説明できる 集団に対してのコミュニケーションのあり方を説明できる					【到達目標】 家族関係と介護ストレスに配慮したコミュニケーションとは何かを説明することができる 家族が抱える介護ストレスに応じたコミュニケーションを行うことができる			
3	【授業単元】 第3章 対象者の特性に特性に応じたコミュニケーション (第1節 コミュニケーション障害への基本対応・第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援)				11	【授業単元】 第5章 介護におけるチームのコミュニケーション (第1節 チームコミュニケーションとは)			
	【到達目標】 ・コミュニケーション障害のある人へのアセスメントの方法について説明することができる ・様々な障害がもたらすコミュニケーション障害を理解するとともに、障害がある人への具体的なコミュニケーションの方法について説明することができる(視覚障害・聴覚障害)					【到達目標】 多職種(他職種)協働の意義と目的について説明することができる。 チームが機能するためのコミュニケーションを行うことができる			
4	【授業単元】 第3章 対象者の特性に特性に応じたコミュニケーション (第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援)				12	【授業単元】 第5章 介護におけるチームのコミュニケーション (第2節 報告・連絡・相談の技術・第3節 記録の技術)			
	【到達目標】 ・様々な障害がもたらすコミュニケーション障害を理解するとともに、障害がある人への具体的なコミュニケーションの方法について説明することができる(構音障害・失語症・うつ病等)					【到達目標】 報告・連絡・相談の意義と具体的な技法について説明・実施することができる。 介護現場における、記録の目的・意義について説明することができる			
5	【授業単元】 第3章 対象者の特性に特性に応じたコミュニケーション (第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援)				13	【授業単元】 第5章 介護におけるチームのコミュニケーション (第4節 会議・議事進行・説明の技術・第5節 事例検討に関する技術 第6節 情報の活用と管理のための技術)			
	【到達目標】 ・様々な障害がもたらすコミュニケーション障害を理解するとともに、障害がある人への具体的なコミュニケーションの方法について説明することができる(知的障害・発達障害・高次脳機能障害・重症心身障害)					【到達目標】 会議の意義や目的、種類、役割を理解するとともに、議事進行のプロセスを説明することができる 事例検討におけるコミュニケーションの基本姿勢と事例検討の展開と必要な視点を説明することができる			
6	【授業単元】 第3章 対象者の特性に特性に応じたコミュニケーション (第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援)				14	【授業単元】 第1章～第5章までの振り返り			
	【到達目標】 ・様々な障害がもたらすコミュニケーション障害を理解するとともに、障害がある人への具体的なコミュニケーションの方法について説明することができる(統合失調症・認知症)					【到達目標】 これまでの授業内容についての自分自身の理解度を知るとともに、自身の課題を明らかにする			
7	【授業単元】 ①～⑥までの振り返り 中間テスト				15	【授業単元】 期末テスト テスト解説			
	【到達目標】 ①～⑥までの自分自身の理解度を知るとともに、自身の課題を明らかにする					【到達目標】 これまでの授業内容についての自分自身の理解度を知るとともに、自身の課題を明らかにする			
8	【授業単元】 第4章 家族とのコミュニケーション (第1節 家族との関係づくり)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(7回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・家族とは何かを説明することができる ・家族との協働関係を構築していくための具体的方法について説明することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

## 授 業 概 要

科目名	生活支援技術Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	馬場 千草		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
障害や疾病にある人について、①医学的・心理的側面から理解すること、②生活上の困りごとを理解すること、③障害や疾病のある人への生活支援をにおいて介護福祉職が果たすべき役割を理解することを目的とし自立に向けた生活支援の方法を具体的に学ぶ。④ケアコンテストに誰もが参加できる技術を身につける。									
介護福祉士として、障害者支援施設・訪問介護事業所・介護老人福祉施設での経験と介護教員14年間の学びを通じ介護福祉士の行う心身の状況の応じた介護の考え方と技術、幸せな介護・楽しい介護に関する授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新 介護福祉士養成講座 8生活支援技術Ⅱ【第2版】(介護福祉士養成講座編集委員会)中央法規出版					事前学習としてテキスト節ごとの関連項目に目を通しからの仕組み、疾病・障害特性について確認を行う。事後学習として支援方法の根拠を整理する。				
回	授業計画			コマ	授業計画				
1・2	【授業単元】 オリエンテーション:科目授業説明・自己紹介			17・18	【授業単元】 【内部障害】腎臓機能障害に応じた介護				
	【到達目標】 疾病や障害とともに生活する人の背景を学び生活支援の意義を理解する。介護福祉士の役割がわかる。				【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:塩分制限				
3・4	【授業単元】 肢体不自由に応じた介護:背髄損傷・片麻痺・脳性麻痺			19・20	【授業単元】 【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護				
	【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:片麻痺 移動・移乗の支援				【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:腹水・浮腫の対応				
5・6	【授業単元】 【内部障害】心臓機能障害に応じた介護			21・22	【授業単元】 知的障害・重症心身障害に応じた介護				
	【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:安楽な対応				【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:コミュニケーション(絵カード・文字量)・移乗支援(福祉用具)				
7・8	【授業単元】 【内部障害】膀胱・直腸障害に応じた介護			23・24	【授業単元】 精神障害・高次脳機能障害に応じた介護				
	【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:排泄支援(膀胱留置カテーテル)				【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:コミュニケーション(アンガーマネジメント)				
9・10	【授業単元】 【内部障害】小腸機能障害に応じた介護			25・26	【授業単元】 【難病】パーキンソン病・悪性関節リウマチに応じた介護				
	【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:胃瘻・腸瘻のある人の衣類交換(ストマ装着体験)				【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:自助具				
11・12	【授業単元】 【内部障害】呼吸機能障害に応じた介護			27・28	【授業単元】 【難病】筋萎縮性側索硬化症(ALS)・筋ジストロフィーに応じた介護				
	【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:安楽な姿勢・入浴、排泄、更衣				【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:移動・移乗支援(全介助)				
13・14	【授業単元】 聴覚・言語障害に応じた介護 *中テスト			29・30	【授業単元】 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセス(アドバンス・ケアプランニング)・定期試験・前期試験の振り返り及び解答解説				
	【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:聴覚障害者のコミュニケーション				【到達目標】 ・人生会議を通して人それぞれの価値観に違いがあることを知る。意思決定支援は年齢や身心の状況によって変化することを理解する。*定期試験にて授業の振り返りを行う。				
15・16	【授業単元】 ・視覚障害に応じた介護			<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 ・障害の特性と特徴を踏まえ生活上の困りごとを知り、自立に向けた生活支援ができる。 ◇演習:視覚障害者の移動・移乗支援								
<b>履修に当たっての心構え・留意点</b>									
介護福祉士としての身だしなみを整え授業に参加してください。									

## 授 業 概 要

科目名	生活支援技術Ⅲ(家政)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	馬場 千草		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義・演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<p>・本人主体の生活を維持継続するための基本的な家事(住環境・洗濯・掃除・簡単な縫い物)を学ぶ。・対象者が個々の状況に応じた家事を自立的に行うことを支援するための知識を習得する。</p>									
<p>介護福祉士として、障害者支援施設・訪問介護事業所・介護老人福祉施設での経験と介護教員14年間の学びを通じ介護福祉士の行う心身の状況の応じた介護の考え方や技術、幸せな介護・楽しい介護に関する授業を行う。</p>									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新 介護福祉士養成講座 6生活支援技術Ⅰ【第2版】(介護福祉士養成講座編集委員会)中央法規出版					事前学習としてテキストを読む、わからない言葉を調べる。事後学習として自宅にて学びを実践する。				
回	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 オリエンテーション:授業内容、スケジュール ・住まいの役割と機能					【授業単元】			
	【到達目標】 ・住まいの役割と機能が理解できる。 ・生活空間を整備することができる。					【到達目標】			
3・4	【授業単元】 安全に生活するための生活環境					【授業単元】			
	【到達目標】 ・日常安全の重要性と対応策が理解できる。 ・住環境整備に関わる職種と役割について理解できる。					【到達目標】			
5・6	【授業単元】 家庭経営・家計の管理の介護 ・買い物介護					【授業単元】			
	【到達目標】 ・家庭経営(お金の基本)を理解することができる。 ・買い物の意義を理解し支援方法が理解できる。					【到達目標】			
7・8	【授業単元】 洗濯の介護					【授業単元】			
	【到達目標】 ・繊維の種類と洗濯方法が理解できる。 ・漂白剤、染み抜きの方法が理解できる。					【到達目標】			
9・10	【授業単元】 裁縫:衣類の補修と管理方法					【授業単元】			
	【到達目標】 ・手縫いの方法:ボタンつけ・並縫い・本返し・まつり縫い・ゴム通しができる。 ・衣類の収納に必要な防虫剤が理解できる。					【到達目標】			
11・12	【授業単元】 消費者保護:悪質商法・クーリングオフ					【授業単元】			
	【到達目標】 悪質商法の手口と対処法が理解できる。					【到達目標】			
13・14	【授業単元】 室内の環境整備:トイレ掃除・浴室掃除・居室掃除・ごみの出し方					【授業単元】			
	【到達目標】 在宅と施設の環境整備の違いについて理解し自立に向けた家事について考えることができる。					【到達目標】			
15	【授業単元】 災害時における介護職の役割と生活支援の実際					<b>【成績評価の方法と基準】</b>			
	【到達目標】 ・災害時における生活支援について理解できる。 ・被災地における活動場所を理解し生活支援の具体的な内容について学ぶ。					科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト、課題提出等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。			
<b>履修に当たっての心構え・留意点</b>									
クラスはチームであることを前提として授業に参加すること。									



## 授 業 概 要

科目名	生活支援技術Ⅲ(調理・家政)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大場 泉			
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間	
<b>【授業を通じての到達目標】</b>										
座学による栄養調理における生活支援技術の知識を習得と実習により実践的な技術の習得をし、食事支援の技術を身につけ、利用者に合わせた食事援助が実践できるようになる										
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>										
特別養護老人ホームで、栄養管理、衛生管理、利用者の食支援を行った経験のある講師が、実際の現場で必要とされる食事支援についてを講義する										
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>					
生活支援技術Ⅰ 生活支援技術Ⅲ(中央法規出版)					日常の生活の中で、高齢者、障害者に適した食事や食材を考えるようにする					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 授業で学ぶ内容について				9	【授業単元】				
	【到達目標】 この授業で学ぶ内容について理解し、授業の準備を行う					【到達目標】				
2 3	【授業単元】 食事の支援技術には、どのようなものがあるかを考える 各障害に合う食支援を考える				10	【授業単元】				
	【到達目標】 座学で、食支援とは何かを考えるとともに、実習を行う際の注意点を理解できる 調理実習室の使い方や後片付けについて理解し、次回からの調理実習を安全に行うことができる					【到達目標】				
4 5	【授業単元】 食品の衛生的で安全な取り扱いについて学ぶ 後片付けや、適切な方法を理解する				11	【授業単元】				
	【到達目標】 座学で食中毒の基礎知識について学ぶと理解し、安全な食品の取り扱い、保存ができる。 実習では、基本的な野菜の切り方などを学び、その準備、後片付けを通して、食品の安全な取り扱いを習得する					【到達目標】				
6 7	【授業単元】 栄養の基礎知識を習得する それぞれの栄養素の働きと栄養のバランスとは、何かを理解できる				12	【授業単元】				
	【到達目標】 バランスの取れた食事のモデル献立の、調理実習を行う 調理実習した食事には、どのような栄養素が含まれて、バランスが取れているのかが説明できる					【到達目標】				
8 9	【授業単元】 高齢者の疾病による食事支援で治療食を学ぶ 糖尿病、高血圧、腎疾患などの治療食で控えるもの、おいしく食べるための工夫を理解できる				13	【授業単元】				
	【到達目標】 減塩食の調理実習を通じて、治療食とは何かを理解できる 減塩食をおいしく食べるための工夫を行うことができる					【到達目標】				
10 11	【授業単元】 高齢者の特性について学び、理解する フレイル予防の食事、認知症の方に対する食支援について理解する 嚥下障害について理解できる				14	【授業単元】				
	【到達目標】 嚥下調整食の調理実習を通して、嚥下障害とは、どのような障害かが理解できる 安全な嚥下調整食とは、おいしい嚥下調整食とは、どのような食事が調理実習を通して理解する					【到達目標】				
12 13	【授業単元】 訪問などにおける在宅支援での食事支援について 訪問時にある食材と調理器具で料理を作ることができる 配食サービスの食事について理解する				15	【授業単元】				
	【到達目標】 限られた環境の中で、限られた時間内に行うことを想定した調理実習を行う。 調理実習ワークを通して、訪問で行う調理について習得する					【到達目標】				
14 15	【授業単元】 授業の振り返りを行う 知識を再確認する 期末テストを実施する。テストの解答・解説を行う				<b>【成績評価の方法と基準】</b>					
	【到達目標】 この授業で学んだことを理解し、知識を生かすことができるのか期末テストで確認する 座学と実習の授業を通して、食事の援助技術を身につける				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>					※小テストの代わりにレポート提出の場合もある					
調理実習にあたっては、安全を心がけ、真摯に取り組む 調理実習の準備や後片付けも授業の一部と考えて行う 授業の予習、復習をおこなう										

# 授 業 概 要

科目名	介護過程Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	岡 賢子・森 伸彦・白井 孝子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間

### 【授業を通じての到達目標】

利用者の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、利用者の多様なニーズに応じた介護過程の展開技術を習得することができる。  
根拠に基づいた介護を実践していくために、チームケアのチーム構成員として自分の考えをメンバーに伝達するコミュニケーション能力を習得する。

### 【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

保健福祉医療分野において、利用者個々の状態や状況に応じた現場実践を経験し、介護教員としての指導経験を持つ教員が、学生個々の状況を把握して、介護過程の理解と実践に向けた授業をグループワークやディベート、発表を用いて実践し、学生の介護過程展開の力と自分の考えを発信するコミュニケーション能力を養う。

### 【使用教科書・教材・参考図書】

中央法規出版(株) 最新介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版

### 【授業時間外における学習】

介護過程の展開に必要な、介護の知識と技術の習得はもちろん、常に介護福祉士としての倫理観に基づいた思考と行動を意図する。  
意識的にクリティカルシンキングを実践することで、根拠を追求する思考のトレーニングをしていく。

回	授業計画	回	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション 介護過程の目的の再確認 介護福祉士としての視点</p> <p>【到達目標】 介護過程の意義・目的を再確認することができる 思考過程を再確認することができる 自分が記載した受け持ち動機から、実践しようとしていた介護の全体像を想像できるか検証でき</p>	9	<p>【授業単元】 〈実習での介護過程の振り返り②〉 自己点検した介護過程をグループ内で共有し、それぞれの事例に対してチームカンファレンスで意見を交換する。</p> <p>【到達目標】 学生同士で事例を共有し、カンファレンス方式で意見を交換することで介護過程の妥当性を根拠に基づき検証することができる。</p>
2	<p>【授業単元】 利用者の生活課題を明確化するための意図的な情報収集 アセスメントに必要なクリティカルシンキング</p> <p>【到達目標】 アセスメントに必要な、意図的な主観的情報の情報収集方法と、観察による客観的情報収集の違いを理解し、情報の中から分析するための根拠を見出すことができる。</p>	10	<p>【授業単元】 〈実習での介護過程の振り返り③〉 自己点検した介護過程をグループ内で共有し、それぞれの事例に対してチームカンファレンスで意見を交換する。</p> <p>【到達目標】 学生同士で事例を共有し、カンファレンス方式で意見を交換することで介護実践の根拠を明確にすることができる。</p>
3	<p>【授業単元】 情報収集から根拠を持った情報分析の一連の流れを確認する。 事例をもとに、情報の解釈・関連付け・統合化について考える。</p> <p>【到達目標】 情報収集から介護計画立案に向けた情報の解釈・関連付け・統合化について確認することができる。 利用者の全体像を理解し、情報の解釈と関連付け、統合化の一連の考え方を確認することができる。</p>	11	<p>【授業単元】 〈介護過程の再検討①〉 それぞれの事例に対してチームカンファレンスでの他者の意見を整理し、新たにアセスメントシートを記入し、介護計画を立案する。</p> <p>【到達目標】 自己の事例に対して行われたカンファレンスをもとに、利用者の望む生活に向けた根拠に基づいた計画立案ができる。</p>
4	<p>【授業単元】 明確化した生活課題の優先順位に基づいた介護計画の立案と実施・評価</p> <p>【到達目標】 紙上事例の解釈に基づき、優先順位の決定とそのための介護計画の立案、実施、評価のプロセスを理解することができる。</p>	12	<p>【授業単元】 〈介護過程の再検討②〉 それぞれの事例に対してチームカンファレンスでの他者の意見を整理し、新たにアセスメントシートを記入し、介護計画を立案する。</p> <p>【到達目標】 自己の事例に対して行われたカンファレンスをもとに、利用者の望む生活に向けた根拠に基づいた介護計画立案ができる。</p>
5	<p>【授業単元】 〈介護過程の展開①〉 グループで、紙上事例を解釈し、実際の実習で使用ツールを使って介護過程を展開する。</p> <p>【到達目標】 紙上事例を解釈し、実習で使用記録ツールを使用して介護計画の立案、実施、評価をすることができる。 他の科目の授業で得た知識や技術を踏まえ、根拠に基づいた介護計画を考えることができる。</p>	13	<p>【授業単元】 〈介護過程の再検討③〉 実習で展開した介護過程と再検討したものをチームで共有し、それが利用者の尊厳や自立、利用者主体の観点で再構築されているか検証する。</p> <p>【到達目標】 再検討した介護過程が、利用者の尊厳や自立、利用者主体の観点で再展開されているか検証し、チームメンバーに自己の考えを伝えることができる。</p>
6	<p>【授業単元】 〈介護過程の展開②〉 グループで、紙上事例の解釈に基づき、実際の実習で使用ツールを使って介護過程を展開する。</p> <p>【到達目標】 紙上事例を解釈し、実習で使用記録ツールを使用して介護計画の立案、実施、評価をすることができる。 他の科目の授業で得た知識や技術を踏まえ、根拠に基づいた介護計画を考えることができ</p>	14	<p>【授業単元】 〈介護過程のビフォーアフターの発表①〉 実習時に展開した介護過程と、再検討したものの比較を、他者に伝えるための発表準備。</p> <p>【到達目標】 発表ツールを用いて、他者に伝える技法で、チームで検討した内容と介護過程の変化をプレゼンすることができる。</p>
7	<p>【授業単元】 〈介護過程の展開③〉 グループで検討した介護計画の発表 介護過程の考え方の振り返りと、理解度の中間評価試験の実施。</p> <p>【到達目標】 グループで検討した介護計画を発表することができる。 介護過程の一連のプロセスと考え方を振り返り、知識の確認をすることができる。</p>	15	<p>【授業単元】 〈介護過程のビフォーアフターの発表②〉 実習時に展開した介護過程と、再検討したものの比較を様々な観点から、他者に伝える。 前期の授業で行った介護過程の理解度を、期末試験の実施により確認する。</p> <p>【到達目標】 発表ツールを用いて、他者に伝える技法で、チームで検討した内容と介護過程の変化をプレゼンすることができる。 介護過程を振り返り、知識の確認をすることができる。</p>
8	<p>【授業単元】 〈実習での介護過程の振り返り①〉 実習で展開した介護過程を共有し、利用者の情報、利用者決定動機、計画立案までが、根拠に基づいて展開されているか点検する。</p> <p>【到達目標】 自己の展開した介護課程を自己点検し、介護課程の一連の流れを振り返ることができる。 自分が実践した介護を根拠に基づいて他者に説明することができる。</p>	<h3>【成績評価の方法と基準】</h3> <p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(7回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>	

### 【履修に当たっての心構え・留意点】

介護過程は、思考のトレーニングです。情報をどのように収集して整理するのかは、介護者の知識や技術の修得度はもちろん、介護者の介護観や人間性が大きく影響してきます。同じ情報をどのように解釈するか、優先順位をどうつけるかで介護が大きく変わります。自分の考えに固執するのではなく、いろいろな考え方をお互いから吸収できるように、チームケアが介護の質を向上させる意義を感じながら授業に参加してください。

# 授 業 概 要

科目名	介護過程Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	岡 賢子・森 伸彦・白井 孝子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

**【授業を通じての到達目標】**

利用者の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、利用者の多様なニーズに応じた介護過程の展開技術を習得することができる。  
根拠に基づいた介護を実践していくために、チームケアのチーム構成員として自分の考えをメンバーに伝達するコミュニケーション能力を習得する。

**【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)**

保健福祉医療分野において、利用者個々の状態や状況に応じた現場実践を経験し、介護教員としての指導経験を持つ教員が、学生個々の状況を把握して、介護過程の理解と実践に向けた授業をグループワークやディベート、発表を用いて実践し、学生の介護過程展開の力と自分の考えを発信するコミュニケーション能力を養う。

**【使用教科書・教材・参考図書】**

中央法規出版(株) 最新介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版

**【授業時間外における学習】**

介護過程の展開に必要な、介護の知識と技術の習得はもちろん、常に介護福祉士としての倫理観に基づいた思考と行動を意識する。  
意識的にクリティカルシンキングを実践することで、根拠を追求する思考のトレーニングをしていく。

回	授業計画	回	授業計画
1	<p>【授業単元】 前期で再検討した介護過程を元に、同一利用者の他の課題に対する介護計画を立案①</p> <p>【到達目標】 根拠に基づいた情報分析を行い、利用者に必要な介護計画を立案することができる。</p>	9	<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>
2	<p>【授業単元】 前期で再検討した介護過程を元に、同一利用者の他の課題に対する介護計画を立案②</p> <p>【到達目標】 根拠に基づいた情報分析を行い、利用者に必要な介護計画を立案することができる。</p>	10	<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>
3	<p>【授業単元】 〈事例報告発表に向けた準備①〉 前期で再検討した介護過程を元に、同一利用者の他の課題に対する介護計画を検討し、自己の学びを事例報告として発表する準備を行う。</p> <p>【到達目標】 二つの介護計画について検討し、自分が考えた介護を発表ツールを用い、文章化して他者に伝える準備をすることができる。</p>	11	<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>
4	<p>【授業単元】 〈事例報告発表に向けた準備②〉 自己の学びを事例報告として発表する準備を行う。</p> <p>【到達目標】 自分が考えた介護を、発表ツールを用い、文章化して他者に伝える準備をすることができる。</p>	12	<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>
5	<p>【授業単元】 〈事例報告発表に向けた準備③〉 自己の学びを事例報告として発表する準備を行う。</p> <p>【到達目標】 自分が考えた介護を、発表ツールを用い、文章化して他者に伝える準備をすることができる。</p>	13	<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>
6	<p>【授業単元】 〈事例報告発表に向けた準備④〉 自己の学びを事例報告として発表する準備を行う。</p> <p>【到達目標】 自分が考えた介護を、発表ツールを用い、文章化して他者に伝える準備をすることができる。</p>	14	<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>
7	<p>【授業単元】 利用者の生活課題に応じた介護過程の展開発表①</p> <p>【到達目標】 自己の介護過程を事例報告として他者に発表することができる。 他者の発表を聞き、多様な方法論を確認することができる。</p>	15	<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>
8	<p>【授業単元】 利用者の生活課題に応じた介護過程の展開発表②</p> <p>【到達目標】 自己の介護過程を事例報告として他者に発表することができる。 他者の発表を聞き、多様な方法論を確認することができる。</p>		<p><b>【成績評価の方法と基準】</b></p> <p>講義全体を100点満点とし、筆記試験、課題提出、事例発表の合計を60点、小テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験、課題提出、事例発表をそれぞれ評価基準に基づいて評価する。 ・毎回の小テストは各回10点満点とし、その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>

**【履修に当たっての心構え・留意点】**

介護過程は、思考のトレーニングです。情報をどのように収集して整理するのかは、介護者の知識や技術の修得度はもちろん、介護者の介護観や人間性が大きく影響してきます。同じ情報をどのように解釈するか、優先順位をどうつけるかで介護が大きく変わります。自分の考えに固執するのではなく、利用者の立場に立った介護を考えるために、いろいろな考え方をお互いから吸収し、チームケアが介護の質を向上させる意義を感じながら授業に参加してください。

## 授 業 概 要

科目名	介護総合演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	集中	担当 教員	岡 賢子・茂木 茜		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<p>利用者の生活とはどのようなものかを事前に理解し、行動目標を作成できるようになる。介護過程の展開との関係性を理解する。実習終了後は他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びである実習後の事後報告会で発表ができる。</p>									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
<p>利用者の主たる生活の場である施設について、その役割や利用者像について学ぶ。介護過程の展開を踏まえた内容も含める。また実習目標を設定しその具体的行動目標を実現するための介護技術を学ぶ。実習終了後は他学生とその感じ方を共有し、受容と共感の実践的学びとする。</p>									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
実習と記録(JESC)					介護記録は文字を中心におこなう。よって書くことや読むこと、文字から想像できる力が必要となる。日頃から読む力や書く力、想像する力を養ってほしい。				
授業計画									
<b>【実習前】</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設実習における具体的実習目標の確認(1)</li> <li>2. 施設実習における具体的実習目標の確認(2)</li> <li>3. 施設実習における具体的実習目標の確認(3)</li> <li>4. 実習目標の学生相互確認からの動機づけ</li> <li>5. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(1)</li> <li>6. 実習に向かう姿勢と具体的行動目標実現のための知識と技術の応用(2)</li> <li>7. 介護過程実践のための知識と技術の応用(1)</li> <li>8. 介護過程実践のための知識と技術の応用(2)</li> </ol>									
<b>【実習後】</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習での学びの振り返り、レポート作成(1)</li> <li>2. 実習での学びの振り返り、レポート作成(2)</li> <li>3. 事例報告発表会(1)</li> <li>4. 事例報告発表会(2)</li> <li>5. 事例報告発表会(3)</li> <li>6. 事例報告発表会(4)</li> <li>7. 実習の総合的振り返りの会</li> </ol>									
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>					<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
<p>・実習で学んできたものを分析理解できるように書き残して、記録の学びにもつなげていけるよう心がけてほしいと考えている。</p>					<p>(試験やレポートの評価基準など)試験またはレポートにて可(60点以上)を合格とする。</p>				

## 授 業 概 要

科目名	介護実習Ⅱ(施設実習Ⅱ)	必修 選択の別	必修	開講 区分	集中	担当 教員	白井・岡・茂木・前田		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	3 単位	総時間数	160 時間
【授業を通じての到達目標】									
施設利用者の生活の場を知ることができる。利用者への理解を深めることができる。利用者の想いを実現する具体的な方法論を知ることができる。ICFの視点に基づき、利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
施設利用者の生活の場を知り、利用者への理解を深め、利用者の想いを実現する学びとする。ICFの視点に基づき、利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する学びとする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
実習と記録(JESC)					介護記録は文字を中心におこなう。よって書くことや読むこと、文字から想像できる力が必要となる。日頃から読む力や書く力、想像する力を養ってほしい。				
授業計画									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の役割と地域における役割を確認する学び</li> <li>2. 移設と利用者・家族・地域との連携関係を学ぶ</li> <li>3. 利用者の生活を支える多職種を知り、多職種協働の理解を深める</li> <li>4. 利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する</li> <li>5. 利用者の想いを実現する具体的な方法論を知る</li> <li>6. 介護過程を展開できる</li> <li>7. 生活の連続性について知る</li> <li>8. 介護福祉士の役割を知る</li> <li>9. 学びを記録することができる</li> <li>10. 利用者を受容する姿勢と共感する姿勢ができる</li> </ol>									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
・実習で学んできたものを分析理解できるように書き残して、記録の学びにもつなげていけるよう心がけてほしいと考えている。					実習評価表、実習日誌記載内容及び巡回指導時の指導内容で評価可(60点以上)で合格とする。				

## 授 業 概 要

科目名	認知症の理解Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	会澤 浩子	
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>								
1年次に学習した、認知症の基本的な知識、症状などをもとに、認知症の人への介護の実践について理解できる。 認知症のある人を取り巻く環境、身体的変化など、その人に応じた介護方法について習得できる。 認知症のある人、その家族などのサポート体制などを理解できる。								
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>								
大学病院(外科)、回復期病院、看護教員、特別養護老人ホームなどにて就業経験のある看護師が、経験を生かして介護福祉士に必要な知識を講義する。								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>			
介護福祉士養成講座13「認知用の理解」:中央法規 必ず持参する					認知症の理解Ⅰで学習した内容を復習する。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> パーソン・センタード・ケア 認知症の人の理解  <b>【到達目標】</b> ・パーソン・センタード・ケアについて説明できる。 ・パーソン・センタード・ケアを実践するためのステップを説明できる。 ・認知症の人を理解するためのポイントを挙げることができる。			9	<b>【授業単元】</b> 認知症の人の終末期医療と介護  <b>【到達目標】</b> ・終末期における認知症の人の特徴を理解できる。 ・終末期における認知症の人がかかえる課題を理解できる。			
2	<b>【授業単元】</b> 認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール  <b>【到達目標】</b> ・センター方式について説明できる。 ・ひもときシートについて説明できる。			10	<b>【授業単元】</b> 環境づくり  <b>【到達目標】</b> ・認知症の人にとっての環境の重要性を理解できる。 ・環境づくりのポイントを理解できる。			
3	<b>【授業単元】</b> 健康状態のアセスメント  <b>【到達目標】</b> ・健康状態のアセスメントのポイントを説明できる。 ・健康状態のアセスメントのためのステップを説明できる。			11	<b>【授業単元】</b> 家族への支援  <b>【到達目標】</b> ・家族介護者の葛藤や心理過程を理解できる。 ・家族支援における介護福祉職の役割を理解できる。			
4	<b>【授業単元】</b> 認知症の人とのコミュニケーション  <b>【到達目標】</b> ・コミュニケーションの基本的な事柄を理解できる。 ・認知症の人とのコミュニケーションの留意点を説明できる。			12	<b>【授業単元】</b> 介護福祉職への支援  <b>【到達目標】</b> ・介護福祉職が安心して働ける環境づくりについて理解できる。 ・介護の現場で、認知症ケアモデルを実践するための方法を理解できる。			
5	<b>【授業単元】</b> 認知症の人へのケア  <b>【到達目標】</b> ・認知症の人の生活障害へのケアについて理解できる。			13	<b>【授業単元】</b> 認知症の人の地域生活支援  <b>【到達目標】</b> ・認知症の人を支援する制度、サービス、機関、などについて理解できる。			
6	<b>【授業単元】</b> 認知症の人へのケア  <b>【到達目標】</b> ・認知症の人の生活障害へのケアについて理解できる。			14	<b>【授業単元】</b> 認知症の人の地域生活支援  <b>【到達目標】</b> ・認知症の人の生活を支援する多職種役割を理解できる。 ・多職種との連携と協働について理解できる。			
7	<b>【授業単元】</b> 認知症の人へのケア 中テスト  <b>【到達目標】</b> ・認知症の人の生活障害へのケアについて理解できる。			15	<b>【授業単元】</b> 認知症の人の生活を支えるケアについて 授業内定期テスト  <b>【到達目標】</b> ・学習内容を振り返り、自分なりの認知症の人へのケアについて考えることができる。			
8	<b>【授業単元】</b> 認知症の人へのさまざまなアプローチ  <b>【到達目標】</b> ・ユマニテッドについて理解できる。 ・バリテーションについて理解できる。 ・回想法について理解できる。			<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>								
実際のケアにつながる学習内容が中心となります。1年次の復習などもしながら進めていく予定です。 わからない内容、言葉などいつでも質問してください。								

## 授業概要

科目名	障害の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	会澤 浩子	
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人への支援について理解する。 障害の特性を理解し、生活支援技術に応用することができる。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
大学病院(外科)、回復期病院、看護教員、特別養護老人ホームなどにて就業経験のある看護師が授業を行う。 現場での経験を生かし、介護福祉士として必要な知識を講義する。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
介護福祉士養成講座14 障害の理解:中央法規 必ず持参する				復習にあたっては、社会の理解・介護の基本・生活支援技術・こころとからだのしくみとはたらきなどの関連科目と併せて行う。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 障害の概念 内部障害(心臓機能障害)			9	【授業単元】 内部障害(肝臓機能障害)			
	【到達目標】 ・障害のとらえ方について理解できる ・心臓のしくみとはたらきについて理解できる。				【到達目標】 ・肝臓のしくみとはたらきについて理解できる。 ・肝臓機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・肝臓機能障害に応じた支援について理解できる。			
2	【授業単元】 内部障害(心臓機能障害)			10	【授業単元】 内部障害(免疫機能障害)			
	【到達目標】 ・心臓のしくみと働きについて理解できる。 ・心臓機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・心臓機能障害に応じた支援について理解できる。				【到達目標】 ・免疫のしくみについて理解できる。 ・免疫機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・免疫障害に応じた支援について理解できる。			
3	【授業単元】 内部障害(膀胱直腸機能障害)			11	【授業単元】 肢体不自由(運動機能障害)			
	【到達目標】 ・膀胱・直腸のしくみとはたらきについて理解できる。 ・膀胱・直腸機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・膀胱・直腸機能障害に応じた支援について理解できる。				【到達目標】 ・肢体不自由の状態について理解できる ・肢体不自由の特性について理解できる ・肢体不自由のある人への支援について理解できる			
4	【授業単元】 内部障害(小腸機能障害)			12	【授業単元】 聴覚・言語障害			
	【到達目標】 ・小腸のしくみとはたらきについて理解できる。 ・小腸機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・小腸機能障害に応じた支援について理解できる。				【到達目標】 ・聴覚障害の種類について理解できる ・聴覚障害のある人への支援について理解できる			
5	【授業単元】 内部障害(呼吸機能障害)			13	【授業単元】 聴覚・言語障害			
	【到達目標】 ・呼吸器系のしくみとはたらきについて理解できる ・呼吸器系障害の原因となる疾患について理解できる ・呼吸機能障害に応じた支援について理解できる。				【到達目標】 ・言語障害の種類について理解できる ・言語障害のある人への支援について理解できる			
6	【授業単元】 視覚障害			14	【授業単元】 重複障害			
	【到達目標】 ・視覚障害の状態について理解できる ・視覚障害の特性について理解できる ・視覚障害に応じた支援について理解できる				【到達目標】 ・重複障害の種類について理解できる。 ・重複障害に応じた支援について理解できる。			
7	【授業単元】 中テスト 各障害の代表的な疾患についてふりかえり			15	【授業単元】 定期試験 前期学習内容のふりかえり			
	【到達目標】 ・代表的な疾患の特徴、症状について想起できる				【到達目標】 ・前期学習内容で不明な点、苦手な点を明らかにすることができる			
8	【授業単元】 内部障害(腎臓機能障害)			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・腎臓のしくみとはたらきについて理解できる。 ・腎臓機能障害をもたらす状態について理解できる。 ・腎臓機能障害に応じた支援について理解できる。							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
障害のある状態について理解し支援方法を学習します。生活支援技術につなげるために、障害別の理解から進めます。からだのしくみとはたらきを復習しながらになります。わからない時はいつでも質問してください。								



## 授 業 概 要

科目名	障害の理解	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	会澤 浩子	
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人への支援について理解する。 障害の特性を理解し、生活支援技術に応用することができる。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
大学病院(外科)、回復期病院、看護教員、特別養護老人ホームなどにて就業経験のある看護師が授業を行う。 現場での経験を生かし、介護福祉士として必要な知識を講義する。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
介護福祉士養成講座14 障害の理解:中央法規 必ず持参する				復習にあたっては、社会の理解・介護の基本・生活支援技術・こころとからだの しくみとはたらきなどの関連科目と併せて行う。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 重症心身障害			9	【授業単元】 障害福祉の基本理念			
	【到達目標】 ・重症心身障害の特性について理解できる。 ・重症心身障害をもたらず状態について理解できる。 ・重症心身障害に応じた支援について理解できる。				【到達目標】 ・ノーマライゼーションについて理解できる ・インクルージョンについて理解できる ・障害者権利条約について理解できる			
2	【授業単元】 知的障害			10	【授業単元】 障害者福祉に関する制度			
	【到達目標】 ・知的障害の特性について理解できる。 ・障害の特性に応じた支援について理解できる。 ・ライフステージに応じた支援について理解できる。				【到達目標】 ・障害福祉に関する歴史について理解できる ・障害者総合支援法にもとづくサービスについて理解できる ・障害者にかかる法律について理解できる			
3	【授業単元】 精神障害			11	【授業単元】 障害者福祉制度と介護保険制度			
	【到達目標】 ・精神障害の種類と特性について理解できる。 ・障害に応じた支援について理解できる。 ・障害に応じた社会資源について理解できる。				【到達目標】 ・障害者福祉制度と介護保険制度の違いについて理解できる ・両制度の併用のしくみについて理解できる			
4	【授業単元】 高次脳機能障害			12	【授業単元】 障害のある人の心理			
	【到達目標】 ・高次脳機能障害の具体的な症状、原因について理解できる。 ・高次脳機能障害による心身への影響について理解できる。				【到達目標】 ・人間に欲求の段階について理解できる ・適応機制について理解できる ・障害受容の段階に応じた支援について理解できる			
5	【授業単元】 高次脳機能障害			13	【授業単元】 連携と協働			
	【到達目標】 ・高次脳機能障害による生活面への影響について理解できる。 ・高次脳機能障害に応じた支援について理解できる。				【到達目標】 ・地域のサポート体制と社会資源について理解できる。 ・障害福祉サービスのしくみと相談支援専門員の役割を理解できる。 ・チームアプローチのあり方について理解できる。			
6	【授業単元】 発達障害			14	【授業単元】 家族への支援			
	【到達目標】 ・発達障害の特性について理解できる。 ・発達のある人の生活と支援について理解できる。 ・家族、教育、医療との連携について理解できる。				【到達目標】 ・障害の考え方、障害に応じた支援について考えを述べることができる。 ・家族への支援について考えを述べることができる。			
7	【授業単元】 難病			15	【授業単元】 障害を理解することについて 定期テスト			
	【到達目標】 ・難病の定義について理解できる。 ・おもな難病の症状について理解できる。 ・難病の人に対する生活上の支援について理解できる。				【到達目標】 ・障害のある人への支援について、ふりかえることができる。 ・理解が不足している項目について、ふりかえることができる。			
8	【授業単元】 難病 中テスト			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・難病の定義について理解できる。 ・おもな難病の症状について理解できる。 ・難病の人に対する生活上の支援について理解できる。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
障害の理解のつづきになります。後半は制度・法律などの内容です。言葉が難しくなることがあります。わからない時はいつでも質問してください。								

## 授業概要

科目名	医療的ケア	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	内山 裕美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義・演習	単位数	2 単位	総時間数	40 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
看護師として大学病院や介護施設での勤務経験、大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、医療的ケアの知識と技術を習得する授業を行う									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション 介護職の行う医療的ケアの意義  <b>【到達目標】</b> ・介護職が行う医療的ケア(喀痰吸引と経管栄養)がイメージできる				9	<b>【授業単元】</b> 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ①呼吸器系のしくみとはたらき  <b>【到達目標】</b> ・呼吸器系のしくみとはたらき、疾患を説明できる			
2	<b>【授業単元】</b> 医行為  <b>【到達目標】</b> ・法律における医行為の定義、倫理を説明できる				10	<b>【授業単元】</b> 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ②呼吸状態と痰  <b>【到達目標】</b> ・呼吸状態の通常時と異常時の違いについて理解できる ・痰の排出するしくみと痰の貯留状態について説明できる			
3	<b>【授業単元】</b> 医療的ケアの背景 実施するための要件  <b>【到達目標】</b> ・喀痰吸引等の制度を説明できる ・介護福祉士等が喀痰吸引等を実施するための要件を説明できる				11	<b>【授業単元】</b> 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ③喀痰吸引  <b>【到達目標】</b> ・喀痰吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部)を説明できる			
4	<b>【授業単元】</b> 安全な療養環境  <b>【到達目標】</b> リスクマネジメント、インシデントアクシデントレポートを説明できる				12	<b>【授業単元】</b> 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論 ④人工呼吸器と気管カニューレ ⑤子どもの吸引と吸引が必要な人の気持ち  <b>【到達目標】</b> ・人工呼吸器と気管カニューレについて理解できる ・子どもの吸引と成人の違いと留意点を理解できる ・吸引が必要な利用者と家族の気持ちを考えることができる			
5	<b>【授業単元】</b> 清潔保持と感染予防 ①感染予防  <b>【到達目標】</b> ・介護職の感染予防を考えることができる				13	<b>【授業単元】</b> 高齢者および障害者・児の喀痰吸引実施手順解説①  <b>【到達目標】</b> ・喀痰吸引の必要物品と使用方法を説明できる			
6	<b>【授業単元】</b> 清潔保持と感染予防 ②消毒と滅菌  <b>【到達目標】</b> ・療養環境の清潔と消毒方法が説明できる ・医療的ケアにおける消毒と滅菌を説明できる				14	<b>【授業単元】</b> 高齢者および障害者・児の喀痰吸引実施手順解説②  <b>【到達目標】</b> ・喀痰吸引の手順と留意点が説明できる			
7	<b>【授業単元】</b> 健康状態の把握  <b>【到達目標】</b> ・健康状態を知る項目(バイタルサインなど)を実施できる				15	<b>【授業単元】</b> 高齢者および障害者・児の喀痰吸引概論と実施手順の振り返り 定期試験  <b>【到達目標】</b> ・喀痰吸引に必要な知識を再確認し、再習得ができる			
8	<b>【授業単元】</b> 第1～7回までの振り返り 中間試験  <b>【到達目標】</b> ・医療的ケアの背景と実施に必要な知識を確認し、再習得ができる				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
医療的ケアは利用者に直接的な影響を与える技術であるため、知識と技術が融合されるように学習しましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	医療的ケア	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	内山 裕美		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義・演習	単位数	2 単位	総時間数	40 時間
【授業を通じての到達目標】									
医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
看護師として大学病院や介護施設での勤務経験、大学での教育経験のある教員が、医療現場の実際を交えながら、医療的ケアの知識と技術を習得する授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版					実技演習のための自己学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ①消化器系のしくみとはたらき				9	【授業単元】 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 ①喀痰吸引の必要物品			
	【到達目標】 ・消化器系のしくみとはたらき、疾患を復習する					【到達目標】 ・喀痰吸引の必要物品の名称と使用方法を説明できる			
2	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ②消化器症状				10	【授業単元】 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 ②経管栄養の手順			
	【到達目標】 ・消化器の症状を説明できる					【到達目標】 ・経管栄養の手順と留意点が説明できる			
3	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ③経管栄養				11	【授業単元】 演習：喀痰吸引 ①口腔・鼻腔内吸引			
	【到達目標】 ・経管栄養が必要な状態を説明できる ・経管栄養のしくみが説明できる					【到達目標】 ・口腔・鼻腔内吸引の留意点を理解し、実施できる			
4	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ④注入する栄養剤				12	【授業単元】 ・減菌物の操作が実施できる ・気管カニューレ内部吸引の留意点を理解し、実施できる			
	【到達目標】 ・生命維持に必要な栄養と水分摂取の重要性を説明できる ・経管栄養で注入する内容について説明できる					【到達目標】 ・減菌物の操作が実施できる ・気管カニューレ内部吸引の留意点を理解し、実施できる			
5	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ④子どもの経管栄養と経管栄養を受ける気持ち				13	【授業単元】 演習：経管栄養 ①胃ろう・腸ろう経管栄養			
	【到達目標】 ・子どもの経管栄養と成人の違いと留意点を理解できる ・経管栄養が必要な利用者と家族の気持ちを考えることができる					【到達目標】 ・胃ろう、腸ろう経管栄養の留意点を理解し、実施できる			
6	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 ①経管栄養の必要物品				14	【授業単元】 演習：経管栄養②経鼻経管栄養			
	【到達目標】 ・経管栄養の必要物品の名称と使用方法を説明できる					【到達目標】 ・経鼻経管栄養の留意点を理解し、1人で実施できる			
7	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 ②経管栄養の手順				15	【授業単元】 医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)の知識と技術の振り返り 定期試験			
	【到達目標】 ・経管栄養の手順と留意点が説明できる					【到達目標】 ・医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)の知識と技術が習得できる			
8	【授業単元】 高齢者および障害児・者の経管栄養概論と実施手順の振り返り 中間試験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・医療的ケアの背景と実施に必要な知識を確認し、再習得ができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
医療的ケアは利用者に直接的な影響を与える技術であるため、知識と技術が融合されるように学習しましょう。									

## 授業概要

科目名	介護福祉士総合講座Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	前田皆子	
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数 30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b> 養成目的を見据え、介護福祉士としての視点を高める。								
<b>【学習内容】</b> 東京福祉専門学校卒業後、介護福祉士として特別養護老人ホームで介護業務に従事してきた教員が、現場の実際を交えながら介護福祉士に必要な視点を養うための授業を行う。								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b> 教科書は特に指定しない。					<b>【授業時間外における学習】</b> 各回の予習・調べ学習や講義後の課題。			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1	【授業単元】 実習Ⅱ(施設実習)の準備①				9	【授業単元】 介護福祉士のキャリアについて		
	【到達目標】 実習Ⅱ(施設実習)の目的を理解し、説明することができる。					【到達目標】 介護福祉士のキャリアの広がりについて知り、説明することができる。		
2	【授業単元】 実習Ⅱ(施設実習)の準備②				10	【授業単元】 介護福祉士の働く場所の選択肢について		
	【到達目標】 実習Ⅱ(施設実習)の目標を立案し、他者へ伝えることができる。					【到達目標】 自分自身がどのような場所で働くか、具体的にイメージし、述べるができる。		
3	【授業単元】 シナプロジー①				11	【授業単元】 第2回模擬試験にむけて		
	【到達目標】 シナプロジーとは何か、説明することができる。					【到達目標】 第2回模擬試験の目標を再確認し、介護福祉士になるための準備をすることができる。		
4	【授業単元】 シナプロジー②				12	【授業単元】 夏休みに向けて		
	【到達目標】 シナプロジーのプログラムについて理解し、考えることができる。					【到達目標】 自分の目標に沿って夏休みの行動計画を立案することができる。		
5	【授業単元】 シナプロジー③				13	【授業単元】 介護福祉士国家試験受験について 介護福祉士国家試験受験の目的・目標の確認 受験申込		
	【到達目標】 シナプロジーのプログラムについて理解し、考えることができる。					【到達目標】 自分なりの介護福祉士国家試験受験の意義・目的・目標を再確認することができる。		
6	【授業単元】 シナプロジー④				14	【授業単元】 学園祭準備		
	【到達目標】 シナプロジーのプログラムについて理解し、考えることができる。					【到達目標】 クラスメイトと協力し、学園祭の準備をすることができる。		
7	【授業単元】 前期中間試験 シナプロジー⑤				15	【授業単元】 前期期末試験		
	【到達目標】 介護福祉士の視点から利用者にあったプログラムを考え、実施することができる。					【到達目標】 前期を振り返り、目標に対する自己の課題を抽出し、卒業後に向けた行動計画を再設定することができる。		
8	【授業単元】 施設実習Ⅱ 振り返り				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(7回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
	【到達目標】 自分のなりたい介護福祉士像を明確にすることができる。							
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b> 個人ワーク・グループワークを通して授業を進めていきます。 クラス全員で関わり合いながら、取り組んでください。 2年生は多忙ですが、全員で山を乗り越えます。								

## 授 業 概 要

科目名	介護福祉士総合講座Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	前田皆子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
養成目的を見据え、介護福祉士としての視点を高める。									
<b>【学習内容】</b>									
東京福祉専門学校卒業後、介護福祉士として特別養護老人ホームで介護業務に従事してきた教員が、現場の実際を交えながら介護福祉士に必要な視点を養うための授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
教科書は特に指定しない。					各回の予習・調べ学習や講義後の課題。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 学園祭準備				9	【授業単元】 自己分析			
	【到達目標】 クラスメイトと協力し、学園祭の準備をすることができる。					【到達目標】 現在の状況を踏まえたうえで、目標達成に向けた計画を再確認することができる。			
2	【授業単元】 学園祭準備				10	【授業単元】 自己分析			
	【到達目標】 クラスメイトと協力し、学園祭の準備をすることができる。					【到達目標】 現在の状況を踏まえたうえで、目標達成に向けた計画を再確認することができる。			
3	【授業単元】 学園祭準備				11	【授業単元】 第5回模擬試験にむけて			
	【到達目標】 クラスメイトと協力し、学園祭の準備をすることができる。					【到達目標】 第5回模擬試験の目標を再確認し、介護福祉士になるための準備をすることができる。			
4	【授業単元】 学園祭準備				12	【授業単元】 卒業に向けて			
	【到達目標】 クラスメイトと協力し、学園祭の準備をすることができる。					【到達目標】 自分の強みを活かし、介護福祉士として活躍するための決意を述べるることができる。			
5	【授業単元】 学園祭準備				13	【授業単元】 冬休みの過ごし方 大掃除			
	【到達目標】 クラスメイトと協力し、学園祭の準備をすることができる。					【到達目標】 自分の目標に沿って冬休みの行動計画を立案することができる。			
6	【授業単元】 学園祭準備				14	【授業単元】 国家試験受験について 合格祈願			
	【到達目標】 クラスメイトと協力し、学園祭の準備をすることができる。					【到達目標】 国家試験受験の意義・目的・目標を再確認し、クラス全員で合格へのモチベーションを高めることができる。			
7	【授業単元】 学園祭の振り返り				15	【授業単元】 定期試験 2年間の振り返り			
	【到達目標】 学園祭を振り返り、協働するために必要なスキルについて述べるることができる。					【到達目標】 この2年間の振り返り、卒業後に向けての決意を述べるることができる。			
8	【授業単元】 後期中間試験 自分の目指す介護福祉士像について				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの振り返りを行い、目標に対する自己の課題を抽出し、卒業後に向けた計画を再設定することができる。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
個人ワーク・グループワークを通して授業を進めていきます。 クラス全員で関わり合いながら、取り組んでください。 2年生は多忙ですが、全員で山を乗り越えます。									

## 授 業 概 要

科目名	介護みらいプログラムⅡ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	高橋利明		
学科コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
<b>【学習内容】</b> （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉科の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホーム施設長である教員が講義を担当する。授業内容はスマート介護士エキスパートの資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
厚生労働省HPよりより良い職場・サービスのために今日からできること(業務改善の手引き)					介護施設でのアルバイト、実習での体験の中で「問題は何か？」という思考を持つこと、また日常生活の中で「もっとこうすれば良いのに」という思考を持ち続けることが先につながる。様々な当たり前を疑ってトレーニングをしよう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1(4/4)	【授業単元】 科目オリエンテーション				9(7/11)	【授業単元】 介護ロボット・ICTを体験しよう②			
	【到達目標】 2年次の学習内容、到達目標について理解ができる介護福祉士としてICTを学ぶ意味を理解することができる実習で感じた、介護現場の問題をあげることができる					【到達目標】 記録の音声入力ソフトを体験し、その機能を知る。「ハナスト」の体験			
2(4/11)	【授業単元】 介護業界の方向性を理解する				10(7/18)	【授業単元】 介護ロボットの開発者の思いを知る①			
	【到達目標】 令和4年度生産性向上推進フォーラムの内容を理解する					【到達目標】 株式会社aba様の取り組みを知る			
3(4/18)	【授業単元】 「マネジメント」について学ぶ				11(7/25)	【授業単元】 介護ロボットの開発者の思いを知る②			
	【到達目標】 介護現場のマネジメントとは何か？卒業生との対話からその必要性を理解する。株式会社くらしま					【到達目標】 株式会社aba様の取り組みを知る			
4(4/25)	【授業単元】 介護ロボット・ICTを体験しよう①				12(8/1)	【授業単元】 介護分野の生産性向上とは？①業務改善を進める7つの視点とは？			
	【到達目標】 コミュニケーションロボットを体験し、その機能を知ることができる					【到達目標】 <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000679148.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000679148.pdf</a> 業務改善が必要となる背			
5(5/9)	【授業単元】 介護ロボットを知る				13(8/8)	【授業単元】 介護分野の生産性向上とは？②業務改善を推進するために必要なことは何か？			
	【到達目標】 見守りセンサーにはどんなものがあるのかを知る					【到達目標】 <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000679148.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000679148.pdf</a> (業務改善に向けた具体的			
6(5/16)	【授業単元】 コニカミノルタ特別授業①				14(8/29)	【授業単元】 介護分野の生産性向上とは？③業務改善を推進するために必要なことは何か？			
	【到達目標】 介護現場におけるICTの現状を理解する					【到達目標】 これまでの学びを整理することができる実習後に抽出した課題に対して、どのように取り組むべきか			
7(5/23)	【授業単元】 コニカミノルタ特別授業②				15(9/5)	【授業単元】 前期定期試験			
	【到達目標】 介護現場におけるICTの現状を理解する					【到達目標】 前期で学んだ内容を整理し、理解度を確認することができる			
8(7/4)	【授業単元】 介護現場の課題について考えてみよう				<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
	【到達目標】 介護現場の「課題」とは何かを理解する実習の体験を振り返り、解決したい課題を抽出する				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
イメージとしては、入職後3年後に焦点を当てている。働いている自分を想像しながら取り組んでほしい。									

## 授 業 概 要

科目名	介護みらいプログラムⅡ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	高橋利明		
学科コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
2年間にわたって講義を展開する。介護業界の仕組みや国の目指す方向性を理解した上で、「生産性向上」や「業務改善」の視点を理解し、介護のICT化やロボットの活用においてどんなことができるのかその目的を理解する。 個人ワーク、グループワークを通じて、介護現場で「自律協働」ができる社会人となるように必要な視点に気づくことができる。 将来的には現場で業務改善の中心として活躍できる人材となることを目指す。									
<b>【学習内容】</b> （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
社会福祉士・介護福祉士として介護現場で経験を積み、専門学校で介護福祉科の学科長としての経験を有している。さらに、社会福祉法人の特別養護老人ホーム施設長である教員が講義を担当する。授業内容はスマート介護士エキスパートの資格試験内容をベースとしている。授業展開は、グループでの活動を主とする。授業単元において最適な特別講師を交え、対話とワークを中心に展開する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
厚生労働省HPより <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928398.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928398.pdf</a> 介護ロボットの					介護施設でのアルバイト、実習での体験の中で「問題は何か？」という思考を持つこと、また日常生活の中で「もっとこうすれば良いのに」という思考を持ち続けることが先につながる。様々な当たり前を疑うトレーニングをしよう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1(9/12)	【授業単元】 ユニカミノルタ特別授業③				11/14	【授業単元】 マネジメントについて理解する①			
	【到達目標】 介護現場におけるICTの現状を理解する					【到達目標】 ゲストスピーカーとの対話から、マネジメントに必要なことについて理解する			
2(9/19)	【授業単元】 ユニカミノルタ特別授業④データの利活用				11/24	【授業単元】 マネジメントについて理解する②			
	【到達目標】 変革ワークを考える仕組みを理解し、ICT介護人材に必要な基本を身につける					【到達目標】 ゲストスピーカーとの対話から、マネジメントに必要なことについて理解する			
3(9/26)	【授業単元】 ユニカミノルタ特別授業⑤				11/24	【授業単元】 介護ロボット・ICTの導入シミュレーション①			
	【到達目標】 変革ワークを考える仕組みを理解し、ICT介護人材に必要な基本を身につける					【到達目標】 就職先や実習先をイメージし、「課題」を捉えることができる。			
4(10/3)	【授業単元】 介護業界を知ろう①				12/14	【授業単元】 介護ロボット・ICTの導入シミュレーション②			
	【到達目標】 介護に関する様々な取り組みを知る～全国の事業所について調べてみよう～					【到達目標】 「課題」を特定し、どのような解決方法が図れるかを検討することができる			
5(10/10)	【授業単元】 介護業界を知ろう②				12/14	【授業単元】 学びの成果の発表会①			
	【到達目標】 介護に関する様々な取り組みを知る～全国の事業所について調べてみよう～					【到達目標】 介護ロボットやICTIについての学びをまとめることができる			
6(10/17)	【授業単元】 介護ロボット導入の手順とポイントを理解する①				4(1/9)	【授業単元】 学びの成果の発表会②			
	【到達目標】 <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928398.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928398.pdf</a>					【到達目標】 介護ロボットやICTIについての学びをまとめることができる			
7(10/24)	【授業単元】 介護ロボット導入の手順とポイントを理解する②				5(1/16)	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928398.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928398.pdf</a>					【到達目標】 2年間のまとめができる			
8(10/31)	【授業単元】 介護ロボット導入の手順とポイントを理解する(まとめ)				<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
	【到達目標】 これまでの授業内容について振り返ると共に、理解度を把握することができる				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
イメージとしては、入職後3年後に焦点を当てている。働いている自分を想像しながら取り組んでほしい。									



## 授 業 概 要

科目名	国家試験対策	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	野々垣和江・渡邊義昭・前田皆子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
国家試験に備え、これまでの復習を行い、介護福祉士に求められる知識を総合的に学ぶ。									
<b>【学習内容】</b>									
①介護福祉士国家試験受験を経験し、東京福祉専門学校卒業後は小規模多機能型居宅介護で実務に従事している介護福祉士②長年に渡り専門学校や大学で国家試験対策を行ってきた教員③東京福祉専門学校卒業後、特別養護老人ホームで介護業務に従事してきた介護福祉士が、介護福祉士としての基礎的な知識向上と応用できる知識を得るための授業を行い、国家試験の合格力を高めていく内容。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
◆書き込み式介護福祉士合格ノート【2023年版】(寺島彰監修 コンテックス情報研究所編著) 成美堂出版 ◆いちばん覚えやすい介護福祉士合格ブック【2023年度版】(コンテックス情報研究所編著)成美堂出版 ◆介護福祉士国家試験 過去問解説集【2024年度版】(中央法規出版)					使用教材の予習・復習				
	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 オリエンテーション 知識の再確認①				17・ 18	【授業単元】 知識の再確認⑨			
	【到達目標】 ・この授業のルールについて理解することができる。 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。			
3・4	【授業単元】 知識の再確認②				19・ 20	【授業単元】 知識の再確認⑩			
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。			
5・6	【授業単元】 知識の再確認③				21・ 22	【授業単元】 知識の再確認⑪			
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。			
7・8	【授業単元】 知識の再確認④				23・ 24	【授業単元】 知識の再確認⑫			
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。			
9・10	【授業単元】 知識の再確認⑤				25・ 26	【授業単元】 知識の再確認⑬			
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。			
11・ 12	【授業単元】 知識の再確認⑥				27・ 28	【授業単元】 知識の再確認⑭			
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。			
13・ 14	【授業単元】 知識の再確認⑦ 前期中間試験				29・ 30	【授業単元】 知識の再確認⑮ 前期期末試験			
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。・知識を広げることができる。 ・前半の学びにおける成果を確認することができる。 ・学びのスタイルを振り返り、次の目標が立案できる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。 ・前期の学びにおける到達度を確認することができる。			
15・ 16	【授業単元】 知識の再確認⑧				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(7回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
グループワークも取り入れて学習をします。自分視点だけでなく、他者視点も取り込みながら知識を深めていきましょう。主体的・積極的に取り組むことが大切です。									

## 授 業 概 要

科目名	国家試験対策	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	野々垣和江・渡邊義昭・前田皆子			
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	40 時間	
【授業を通じての到達目標】										
国家試験に備え、これまでの復習を行い、介護福祉士に求められる知識を総合的に学ぶ。										
【学習内容】										
①介護福祉士国家試験受験を経験し、東京福祉専門学校卒業後は小規模多機能型住宅介護で実務に従事している介護福祉士②長年に渡り専門学校や大学で国家試験対策を行ってきた教員③東京福祉専門学校卒業後、特別養護老人ホームで介護業務に従事してきた介護福祉士が、介護福祉士としての基礎的な知識向上と応用できる知識を得るための授業を行い、国家試験の合格力を高めていく内容。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
◆書き込み式介護福祉士合格ノート【2023年版】(寺島彰彦 編集 コンテックス情報研究所編著) 成美堂出版 ◆いちばん覚えやすい介護福祉士合格ブック【2023年度版】(コンテックス情報研究所編著)成美堂出版 ◆介護福祉士国家試験 過去問解説集【2024年度版】(中央法規出版)					使用教材の予習・復習					
授業計画					コマ	授業計画				
1・2	【授業単元】 オリエンテーション 知識の再確認①				17・ 18	【授業単元】 知識の再確認⑨				
	【到達目標】 ・この授業のルールについて理解することができる。 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
3・4	【授業単元】 知識の再確認②				19・ 20	【授業単元】 知識の再確認⑩ 後期末試験				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。 ・後期の学びにおける到達度を確認することができる。				
5・6	【授業単元】 知識の再確認③				21・ 22	【授業単元】 知識の再確認⑪				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
7・8	【授業単元】 知識の再確認④				23・ 24	【授業単元】 知識の再確認⑫				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
9・10	【授業単元】 知識の再確認⑤				25・ 26	【授業単元】 知識の再確認⑬				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
11・ 12	【授業単元】 知識の再確認⑥				27・ 28	【授業単元】 知識の再確認⑭				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
13・ 14	【授業単元】 知識の再確認⑦				29・ 30	【授業単元】 知識の再確認⑮ 後期末試験				
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。					【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。 ・知識を広げることができる。				
15・ 16	【授業単元】 知識の再確認⑧ 後期中間試験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 ・習得済科目の再確認ができる。・知識を広げることができる。 ・前半の学びにおける成果を確認することができる。 ・学びのスタイルを振り返り、次の目標が立案できる。									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
グループワークも取り入れて学習をします。自分視点だけでなく、他者視点も取り込みながら知識を深めていきましょう。主体的・積極的に取り組むことが大切です。										

## 授 業 概 要

科目名	日本語能力試験対策講座Ⅱ	必修 選択の別	選択	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	植村美香子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<p>かいごんば、じやふきょくしけん、わ にはんご 介護現場、授業、国家試験の分からない日本語をなくす。</p> <p>わんがつ おこな、かいごふくしこくしけん、ごうかく もんごうかく それにより、2024年1月に行われる介護福祉士国家試験の合格に合格する。</p>									
<b>【学習内容】</b>									
かいごんば、むつよう、せんもんごうご、ていごかいごふくしこくしけん、むつようかい 介護現場で必要な専門用語の定着、介護福祉士国家試験の長文理解。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
介護授業におけるテキスト等から、専門用語等を抽出しプリントを作成し、使用する。					介護の授業内容で分からなかった日本語の発音などについて、番帳からメモをし次の授業で積極的に質問をする。また、自身で調べたことを個人で完結させず、教師や学生間でもシェアアウトプットする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 専門用語(日本語)の再確認と定着				9	【授業単元】 専門用語(日本語)の再確認と定着			
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。					【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。また、定着する。			
2	【授業単元】 専門用語(カタカナ)の再確認と定着				10	【授業単元】 専門用語(日本語)の再確認と定着			
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。					【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を定着することができる。			
3	【授業単元】 ①②の専門用語の文章理解				11	【授業単元】 専門用語(カタカナ)の再確認と定着			
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の文章の理解を深めることができる。					【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。			
4	【授業単元】 ①②③で学習した専門用語の長文理解				12	【授業単元】 ④⑤⑥で学習した専門用語の文章理解			
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の長文の理解を深めることができる。					【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の文章の理解を深めることができる。			
5	【授業単元】 専門用語(日本語)の再確認と定着				13	【授業単元】 練習問題の解答解説の日本語フォロー			
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。また、定着する。					【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を定着することができる。			
6	【授業単元】 専門用語(カタカナ)の再確認と定着				14	【授業単元】 今後役に立つ日本語のまとめ			
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を定着することができる。					【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。また、定着する。			
7	【授業単元】 ⑤⑥の専門用語の文章理解				15	【授業単元】 授業全体の振り返り・定期テスト・定期テスト解答解説			
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の文章の理解を深めることができる。					【到達目標】 自分の課題を把握してその対策を準備することができる。			
8	【授業単元】 ①～⑦の振り返り・中間テスト ⑤⑥⑦で学習した専門用語の長文理解				<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
	【到達目標】 学習した語彙・漢字を適切に使うことができる。 国家試験に出題される専門的な語彙の長文の理解を深めることができる。				<p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
介護についての学習での、日本語における問題点や疑問を、日本語クラスで解消する。また、常に国家試験合格への明確な意識を持つ。									

## 授 業 概 要

科目名	日本語能力試験対策講座Ⅱ	必修 選択の別	選択	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	植村美香子		
学科 コース	介護福祉士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>かいごけんば、じょせふとつかしけん、わがくにほんご 介護現場、授業、国家試験の分からない日本語をなくす。</p> <p>ねんがつおこな、かいごふくしこつかしけん、ごうかくもてうかく それにより、2024年1月に行われる介護福祉士国家試験の合格に合格する。</p>									
【学習内容】									
かいごけんば、じつようせんもんご、ていじつごいごふくしこつかしけん、ちようごかい 介護現場で必要な専門用語の定着、介護福祉士国家試験の長文理解。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
介護授業におけるテキスト等から、専門用語等を抽出しプリントを作成し、使用する。					介護の授業内容で分からなかった日本語の疑問などについて、普段からメモをし次の授業で積極的に質問をする。また、自身で調べたことを個人で完結させず、教師や学生間でもシェアアウトプットする。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 練習問題の日本語フォロー			9	【授業単元】 練習問題の日本語フォロー				
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。				【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。また、定着する。				
2	【授業単元】 練習問題の日本語フォロー			10	【授業単元】 練習問題の日本語フォロー				
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。				【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を定着することができる。				
3	【授業単元】 練習問題の日本語フォロー			11	【授業単元】 練習問題の日本語フォロー				
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。				【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。				
4	【授業単元】 練習問題の日本語フォロー			12	【授業単元】 国家試験の解答テクニック				
	【到達目標】 学習した日本語を適切に使うことができる。				【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を定着することができる。				
5	【授業単元】 練習問題の日本語フォロー			13	【授業単元】 気をつける日本語を再確認して試験に臨めるようにする。				
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。また、定着する。				【到達目標】 気をつける日本語を再確認して試験に臨めるようにする。				
6	【授業単元】 練習問題の日本語フォロー			14	【授業単元】 今後に役立つ日本語のまとめ				
	【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を定着することができる。				【到達目標】 国家試験に出題される専門的な語彙の理解を深めることができる。また、定着する。				
7	【授業単元】 練習問題の日本語フォロー			15	【授業単元】 授業全体の振り返り・定期テスト・定期テスト解答解説				
	【到達目標】 学習した日本語を適切に使うことができる。				【到達目標】 国家試験に向けて適切な準備をすることができる。				
8	【授業単元】 ①～⑦の振り返り・中間テスト			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 学習した語彙・漢字を適切に使うことができる。			<p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>・試験は筆記試験で行う。          ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
介護についての学習での、日本語における問題点や疑問を、日本語クラスで解消する。また、常に国家試験合格への明確な意識を持つ。									